

# 大分の畜産

2014



第6回九州連合ホルスタイン共進会名誉賞受賞  
「ヒルアイランド テインバー アジソ SD ジエシー」

平成26年度

大分県

# 目 次

I 農業及び畜産の概要	
1. 農業の概要	1
2. 畜産の概要	3
II 家畜別の動き	
1. 肉用牛	4
2. 乳用牛	8
3. 豚	11
4. 採卵鶏	13
5. ブロイラー	16
6. 地鶏	19
7. 生産費と所得の推移	20
III 飼料	22
IV 家畜衛生・畜産環境	25
V 平成 27 年度 大分県畜産関係補助事業等（抜粋）	27
資料 1 畜産関係団体等一覧	31
資料 2 畜産関係機関県組織機構	32
資料 3 大分県の種雄牛	33
資料 4 県内の主要なふれあい牧場	34
資料 5 平成 26 年農林水産部 畜産振興課・畜産技術室の 主な出来事	36

# I 農業及び畜産の概要

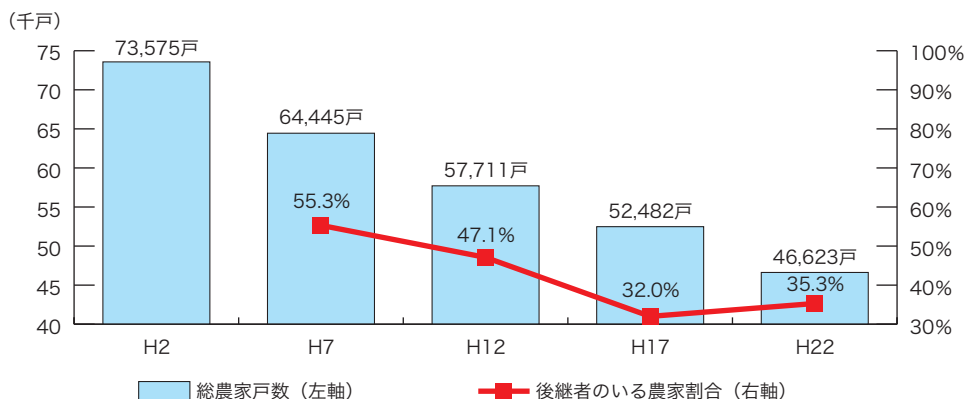
## 1. 農業の概要

### (1) 本県農業の位置づけ

項目	単位	区 分					資料
		大分県	九州	全国	大分/九州(%)	大分/全国(%)	
総農家戸数	戸	46,623	363,232	2,527,948	12.8	1.8	農林水産省「農林業センサス(平成22年)」
販売農家戸数	戸	29,512	237,899	1,631,206	12.4	1.8	
(構成比)	(%)	63.3	65.5	64.5	96.6	98.1	
農業就業人口	人	43,977	405,407	2,605,736	10.8	1.7	農林水産省「生産農業所得統計(平成25年)」
農業産出額	億円	1,276	16,731	85,742	7.6	1.5	
生産農業所得	億円	441	5,076	29,646	8.7	1.5	
生産農業所得÷農業産出額	(%)	34.6	30.3	34.6	113.9	100.0	
農業産出額÷総農家戸数	千円	2,737	4,606	3,392			
農業産出額÷販売農家戸数	千円	4,324	7,033	5,256			
耕地面積	ha	57,100	552,600	4,537,000	10.3	1.3	農林水産省「耕地及び作付面積統計(平成25年)」
田面積	ha	40,500	321,500	2,465,000	12.6	1.6	
(構成比)	(%)	70.9	58.2	54.3	121.8	130.6	
畑面積	ha	16,600	231,200	2,072,000	7.2	0.8	
(構成比)	(%)	29.1	41.8	45.7	69.6	63.7	
うち牧草地	ha	2,800	14,600	611,100	19.2	0.5	
(構成比)	(%)	4.9	2.6	13.5	188.5	36.3	

(注) 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家。  
 農業就業人口：販売農家で、農家に常住し、しかも生活の本拠をそこに持つ世帯員のうち、調査期日前1年間に、「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」。  
 生産農業所得：農業産出額から生産のために投入された物的経費を控除して推計したものの。

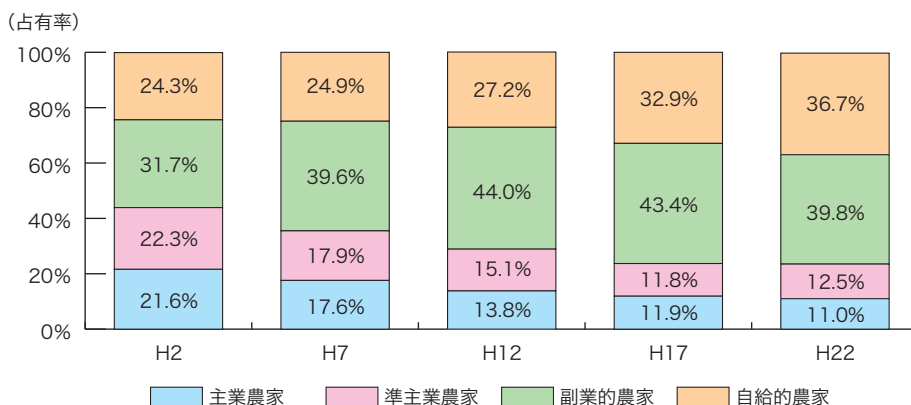
### (2) 農家戸数の推移（大分県）



農家戸数はH22年が46,623戸で、5年前に比べ11.2%減少した。5年毎に約10%が廃業しており、この20年で3分の2以下まで減少した。  
 後継者のいる農家割合はH22年が35.3%で、5年前に比べ110.3%（3.3ポイント）増加したものの、戸数では300戸以上減少している。

資料：農林水産省「農林業センサス」

### (3) 主業副業農家占有率の推移（大分県）

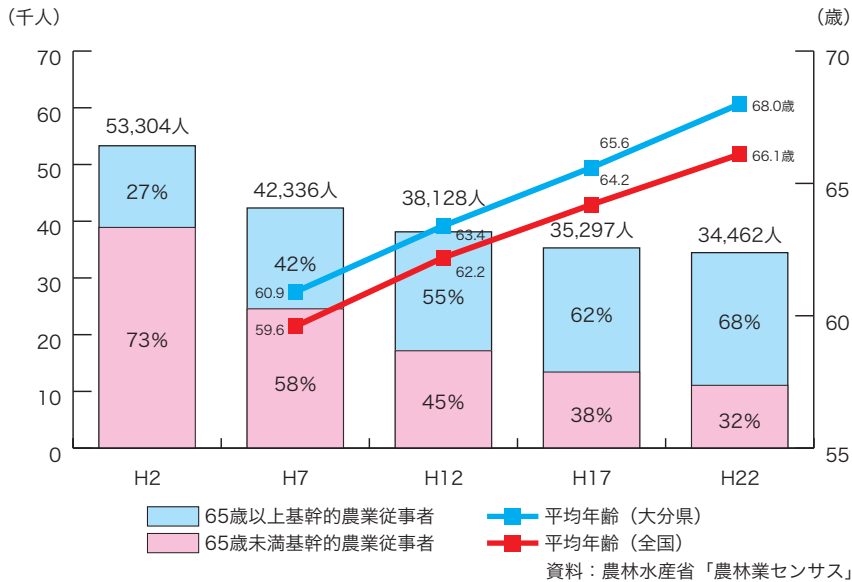


H22年の農家戸数46,623戸のうち主業農家の割合は11.0%（5,144戸）で、5年前に比べ0.9%減少した。  
 農家戸数は5年前に比べ、11.2%の減少に対し、主業農家戸数は17.6%（1,119戸）減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

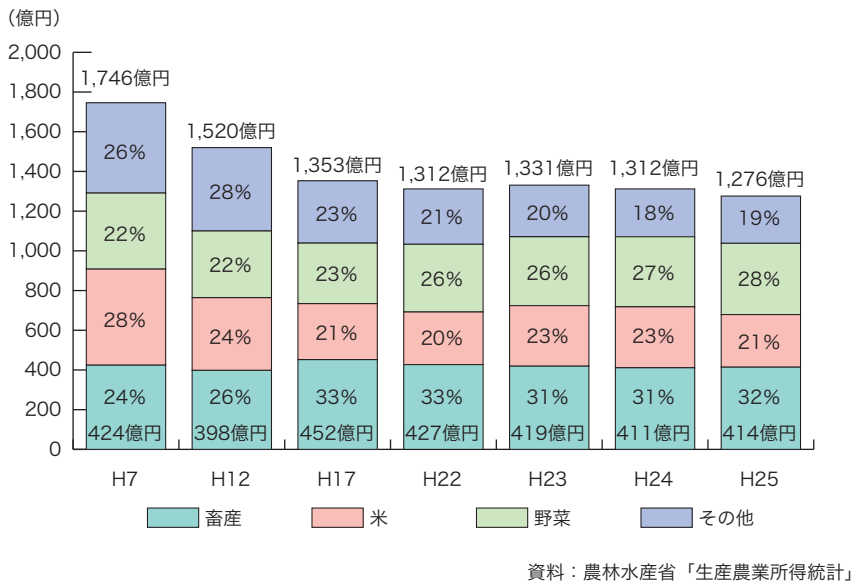
(注) 主業農家：販売農家のうち農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。  
 準主業農家：販売農家のうち農外所得が主で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。  
 副業的農家：販売農家のうち65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家。（主業農家・準主業農家以外の農家）  
 自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。

#### (4) 農業労働力の推移（大分県）



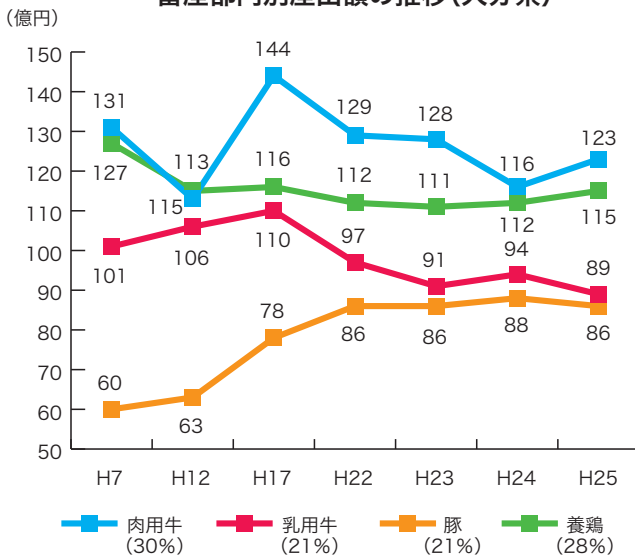
基幹的農業従事者数は、H22年の従事者数は34,462人で、5年前に比べ97.6%と、減少傾向が鈍化している。  
 65歳未満従事者割合は、H22年は32%と5年前に比べ5.6ポイント(2,241人)減少し、全体の3分の1を下回っている。  
 平均年齢は、H22年は68歳であり、5年前に比べ2.4歳上昇している。5年毎に2歳強上昇しており、現在のペースで高齢化が進むと、H27年には70歳を超える可能性が高い。  
 (注) 基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、調査日前1年間の普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のこと。

#### (5) 農業産出額（大分県）

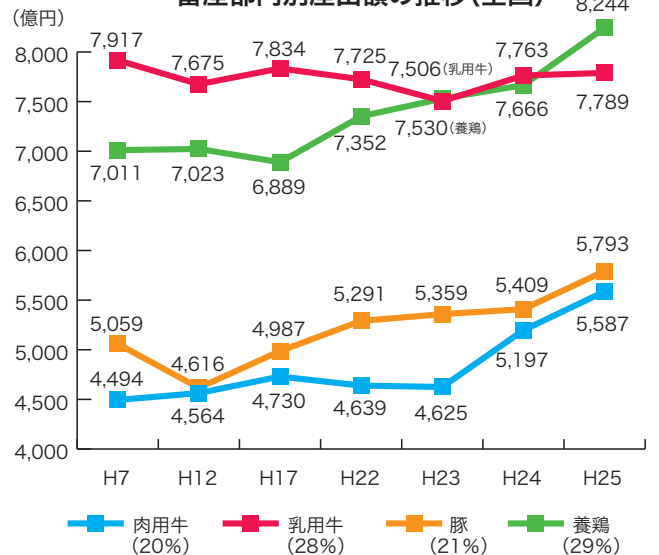


H25年の農業総産出額は1,276億円で前年に比べ36億円(2.7%)減少した。畜産は414億円で総産出額の32%を占め、前年に比べ3億円(0.7%)増加した。  
 農業産出額のうち畜産部門別産出額は、肉用牛は123億円(畜産に占める構成比30%)で、前年に比べ6.0%増加した。乳用牛は89億円(同21%)で5.3%、豚は86億円(同21%)で2.2%減少し、養鶏は115億円(同28%)で2.6%、前年に比べ増加している。

#### 畜産部門別産出額の推移(大分県)



#### 畜産部門別産出額の推移(全国)



(注) ( ) はH25年の構成比

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

## 2. 畜産の概要

### (1) 家畜の飼養戸数・頭羽数（平成 26 年 2 月 1 日）

		大分県		九 州			全 国		
		実数	対前年比(%)	実数	対前年比(%)	順位	実数	対前年比(%)	順位
肉用牛	戸数	1,450	91.2	25,200	93.7	5	57,500	93.8	11
	頭数	51,300	97.3	921,200	97.3	6	2,567,000	97.2	16
	頭 / 戸	35.4	106.9	36.6	103.9	4	44.6	103.6	33
乳用牛	戸数	156	90.7	1,810	96.3	6	18,600	95.9	26
	頭数	14,100	95.9	117,900	98.1	5	1,395,000	98.0	17
	頭 / 戸	90.4	105.7	65.1	101.9	1	75.0	102.2	3
豚	戸数	60	87.0	1,700	96.0	6	5,270	94.6	24
	頭数	145,300	94.6	3,004,000	98.3	5	9,537,000	98.5	19
	頭 / 戸	2,421.7	108.8	1,767.1	102.3	1	1,809.7	104.1	8
採卵鶏	戸数	37	92.5	527	98.9	7	2,560	96.6	27
	千羽	1,498	98.5	23,636	101.8	6	172,349	100.1	29
	千羽 / 戸	40.5	106.5	44.9	102.9	3	67.3	103.6	31
ブロイラー	戸数	59	101.7	1,160	100.9	5	2,380	98.3	10
	千羽	2,230	88.8	68,018	102.8	5	135,747	103.1	12
	千羽 / 戸	37.8	87.3	58.6	102.0	6	57.0	104.8	19

（資料：農林水産省「畜産統計」「食鳥流通統計」）

#### ①肉用牛

戸数、頭数ともに全国の上位に位置するが、1戸あたりの飼養規模は全国33位(H25年35位)であり、H23年以降、2年連続で縮小してきたものが、やや拡大に転じている。

#### ②乳用牛

飼養戸数、頭数共に前年に比べ減少したが、1戸あたりの飼養頭数は対前年比5.7%増え、九州1位、全国3位の規模となっている。

#### ③豚

飼養戸数、頭数共に前年に比べ減少したが、1戸あたりの飼養頭数は対前年比8.8%増え、九州1位、全国8位の規模となっている。

#### ④採卵鶏

飼養戸数、羽数共に前年に比べ減少したが、1戸あたりの飼養羽数は対前年比6.5%増えている。

#### ⑤ブロイラー

飼養戸数はH25年に比べ1戸増加したが、飼養羽数は11.2%、1戸あたり飼養羽数は12.7%減少している。

### (2) 認定農業者数（畜産：平成 26 年 3 月末時点）

	県計	畜産単一経営小計					
		酪農	肉用牛	養豚	養鶏	その他	
認定農業者数	4,248	433	125	217	43	44	4
法人数	542	103	35	24	26	17	1
率	12.8%	23.8%	28.0%	11.1%	60.5%	38.6%	25.0%

（注）「畜産単一経営」とは畜産関係販売金額が農産物総販売金額の80%以上を占める経営をいう

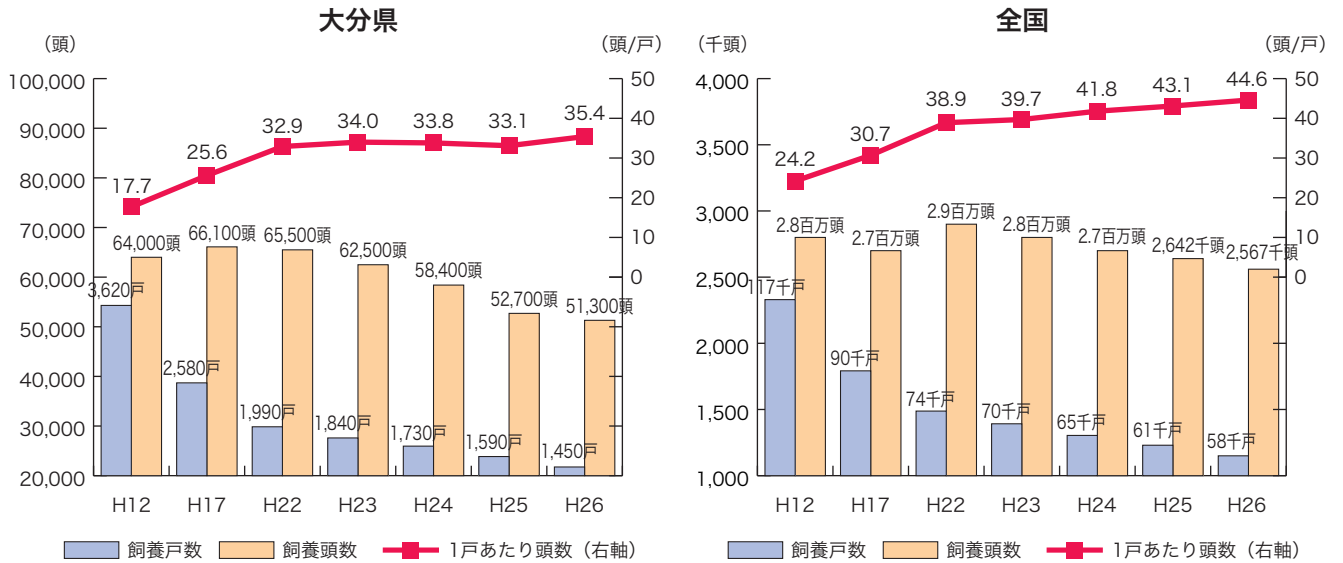
（資料：大分県）

畜産単一経営における認定農業者数は433戸であり、法人化率は23.8%と県全体の法人化率12.8%の約2倍となっている。特に養豚、養鶏における法人化率が高く、家族経営が中心となっている肉用牛は11.1%と県全体の法人化率も下回っている。

## II 家畜別の動き

### 1. 肉用牛

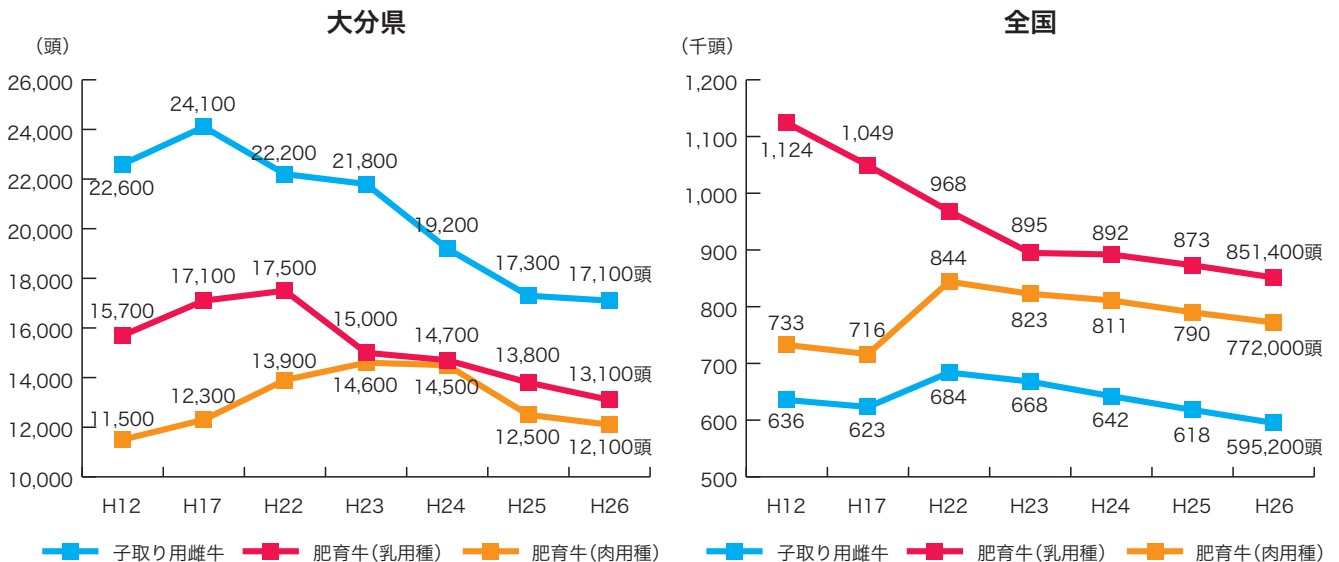
#### (1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H26年2月1日現在の飼養戸数は1,450戸で前年に比べ140戸（9.1％）減少した。高齢化や大規模農家の廃業で毎年減少しており、H12年比40％となっている。  
 飼養頭数は51,300頭で、前年に比べ1,400頭減少し、H22年以降の4年間で14,200頭減少した。廃業だけでなく、中小規模経営体を中心に規模の縮小が進んだことが大きな要因と考えられる。  
 1戸あたりの飼養頭数は35.4頭と、2年連続で減少から拡大に転じている。

#### (2) 用途別頭数の推移

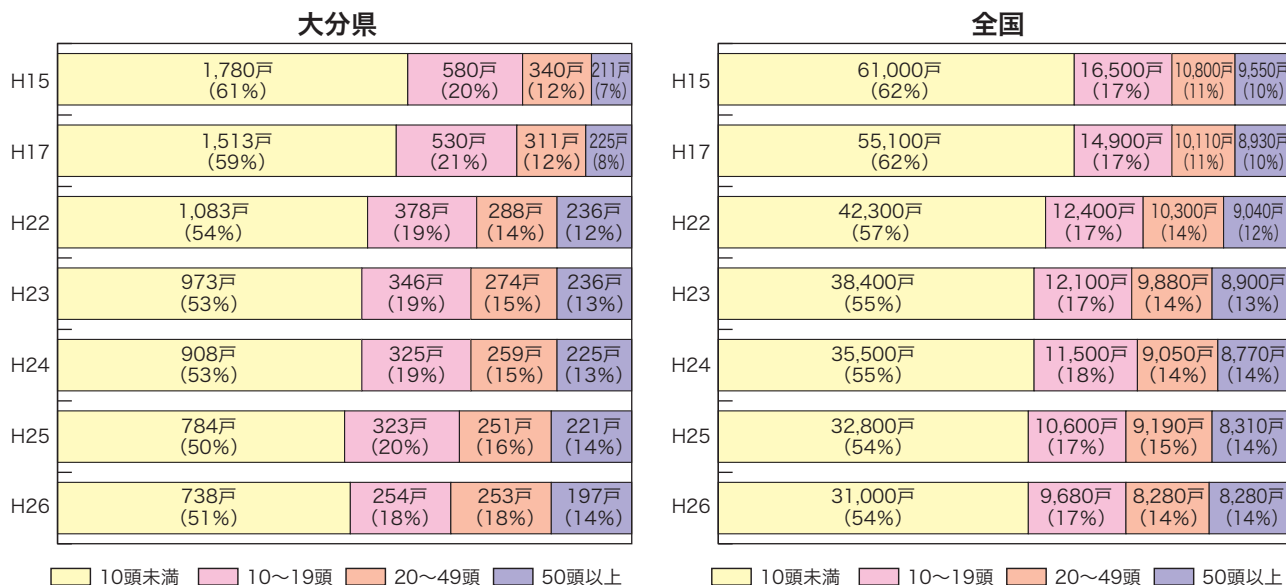


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 子取り用雌牛：子牛の生産を目的として飼養している雌牛（過去に種付けしたことのある牛及び近い将来種付けをすることが確定している牛。）  
 (注2) 肥育牛：肉牛販売を目的に飼養している牛。したがって、ほ育・育成中の牛でも引き続き自家で肥育する予定のものは肥育牛とする。

子取り用雌牛は17,100頭で、前年に比べ200頭（1.1％）減少した。  
 肥育牛（肉用種）は、12,100頭で前年に比べ400頭（3.2％）減少している。  
 肥育牛（乳用種）は、13,100頭で前年に比べ700頭（5.0％）減少した。  
 飼料価格の高騰や経営者の高齢化等の影響により、全ての用途で減少している。

### (3) 規模別飼養戸数の推移

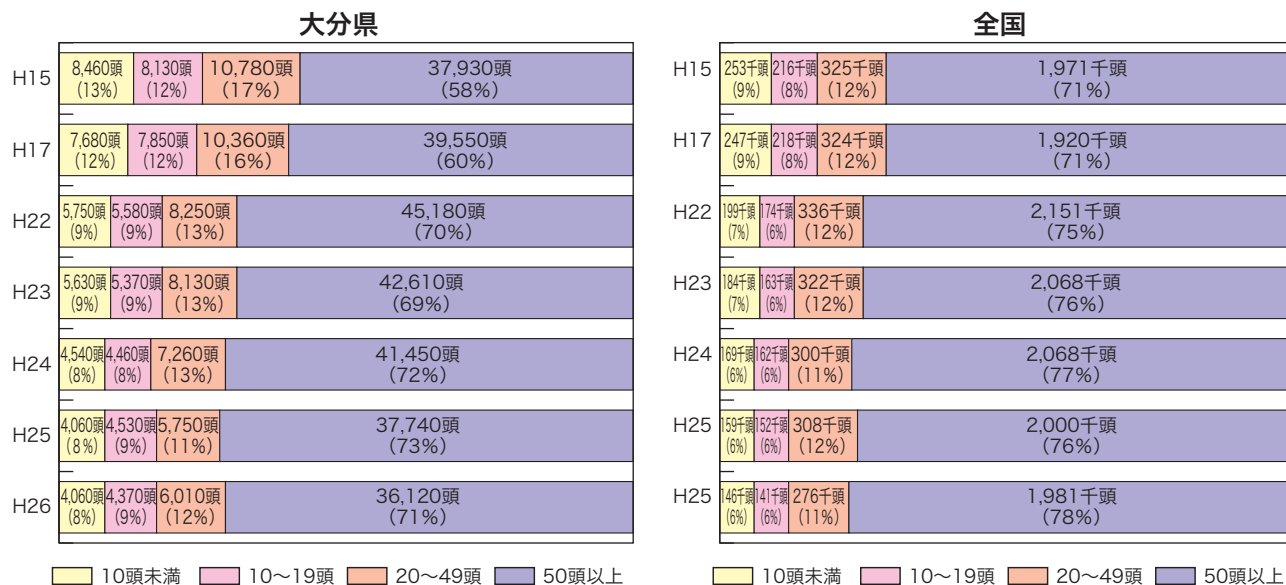


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

これまで大分県、全国共により大規模な階層の占める割合が増加してきており、これは小規模経営体の減少ペースが大きい  
ため、相対的に増加しているものであり、実戸数は減少している。  
H26年は前年度に比べほぼ横ばいとなっている。

### (2) 規模別飼養頭数の推移

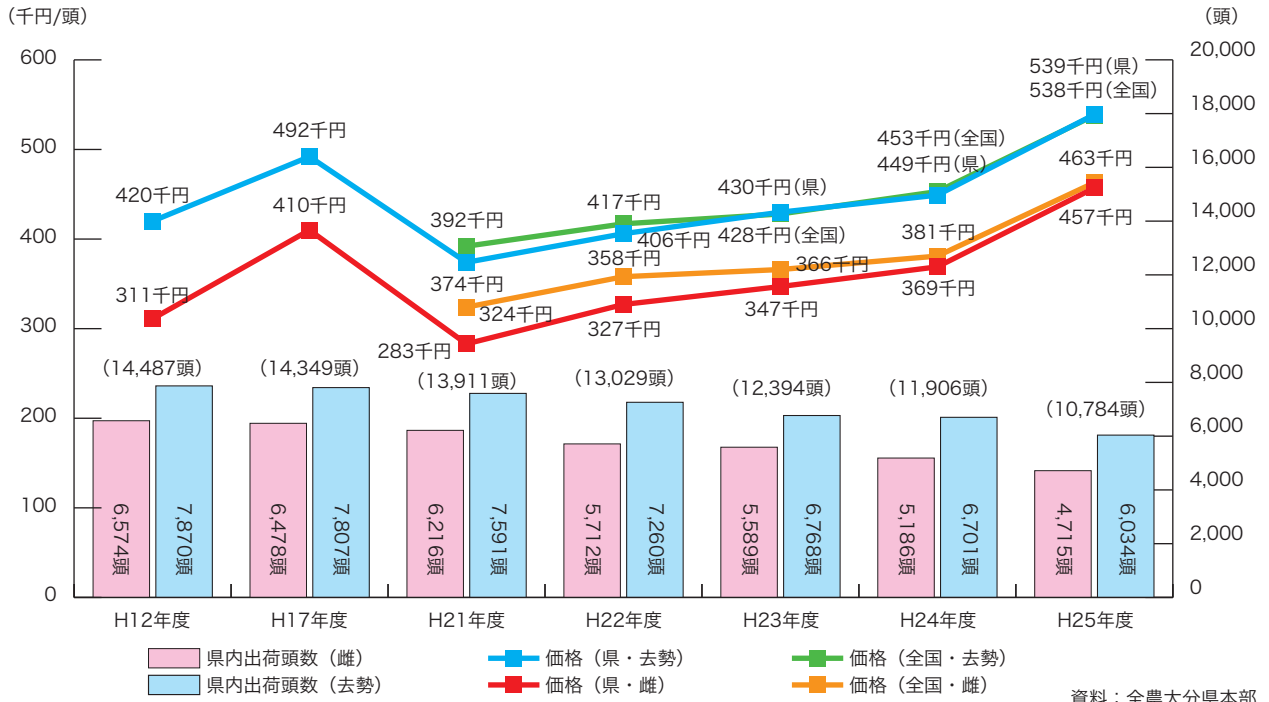


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

全国ではこれまでと同様、大規模な階層の占める割合が増加しているが、大分県は前年に比べ、割合は減少している。  
しかし、全国においても大規模な階層の占める実頭数は減少している。

### (5) 子牛市場出荷頭数・平均価格の推移

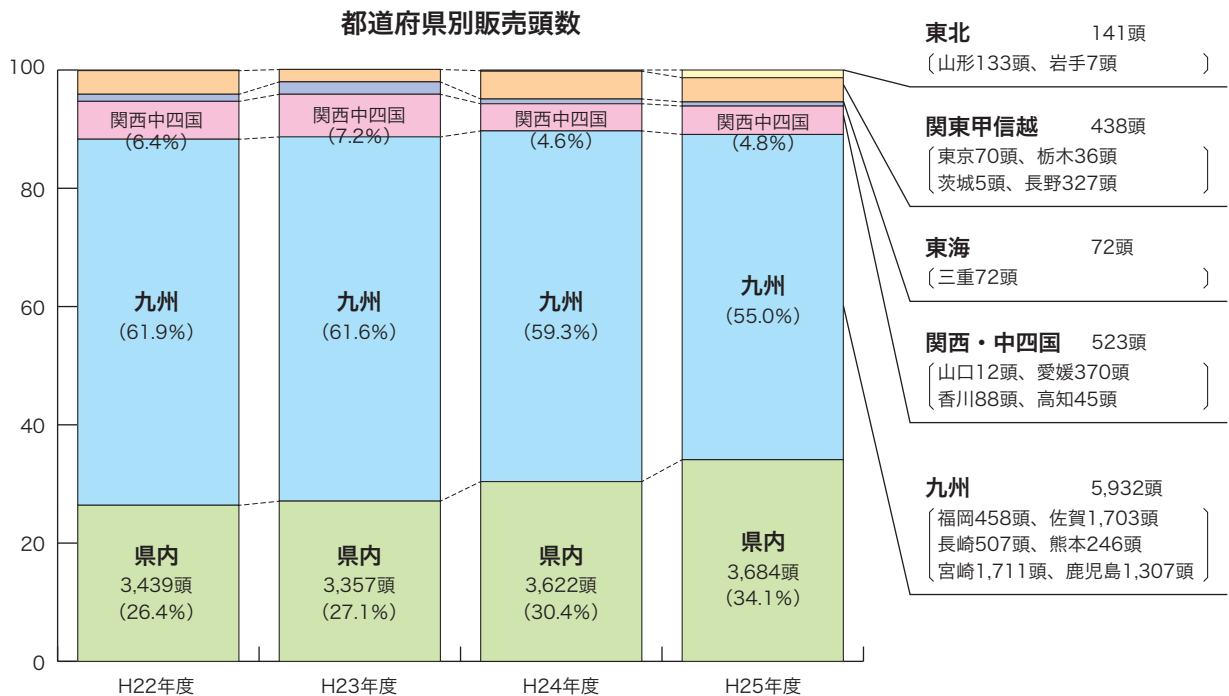


(注1) グラフ内「去勢」頭数には「雄」頭数を含まず、( )内出荷合計頭数には「雄」頭数を含むため、合計頭数は一致しない  
 (注2) 「大分の畜産 2011」以前は「入場頭数」を、「大分の畜産 2012」以降は「成立頭数」を「出荷頭数」として計上  
 (注3) 再上場による頭数等は含まない

資料：全農大分県本部

H25年度の県内出荷頭数は10,784頭で、前年に比べ1,122頭(9.4%)少なく、出荷頭数は毎年減少している。  
 H25年度の市場平均価格は、雌・去勢ともに大幅に上昇している。  
 去勢平均価格は全国平均と同程度となっているが、雌は全国平均を6千円(1.4%)下回っている。

### (6) 肉用子牛(黒毛和種)の流通



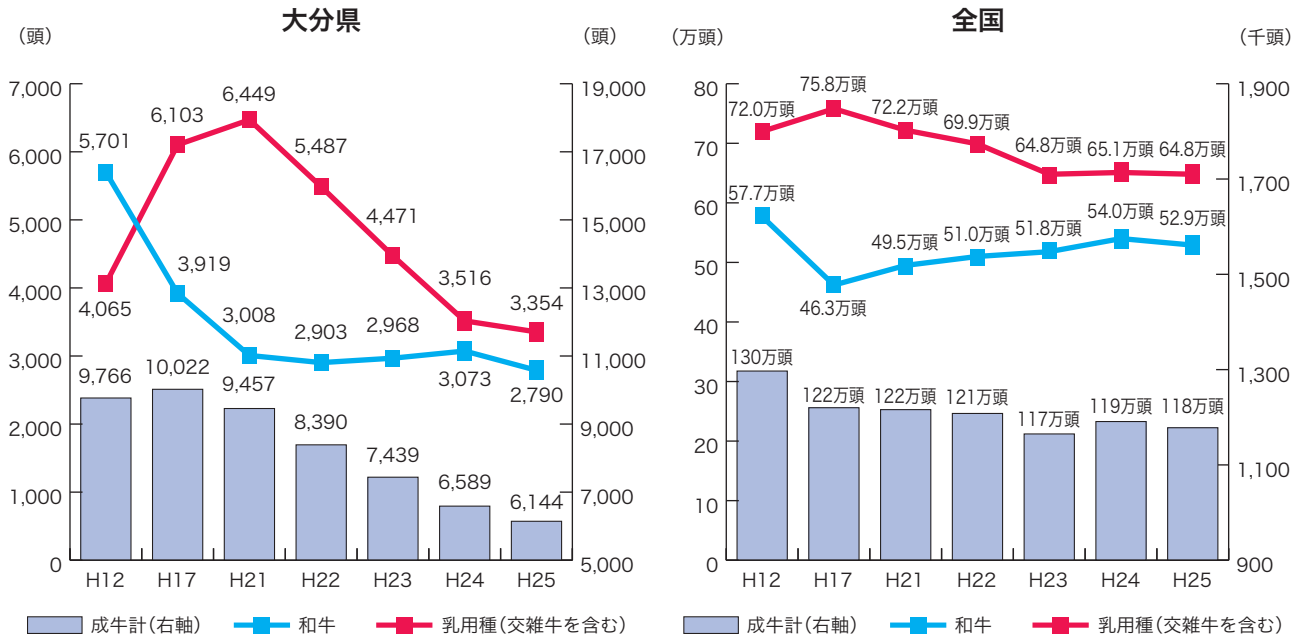
資料：全農大分県本部

(注) 再上場による頭数等を含むため、(5)に示す出荷頭数とは必ずしも一致しない

H25年度の県内販売頭数は3,684頭で、総出荷頭数10,790頭の34.1%であった。  
 県内向け販売頭数割合は前年比3.7ポイント上昇し、頭数も79頭増加している。  
 地域別では九州向けが5,932頭(55.0%)と最も多く、県外販売頭数のうち83.4%を占めている。  
 県別では、宮崎県が1,711頭(15.8%)と最も多く、次いで佐賀県1,703頭(15.7%)、鹿児島県1,307頭(12.1%)であった。



(7) 肉用牛県内と畜頭数の推移

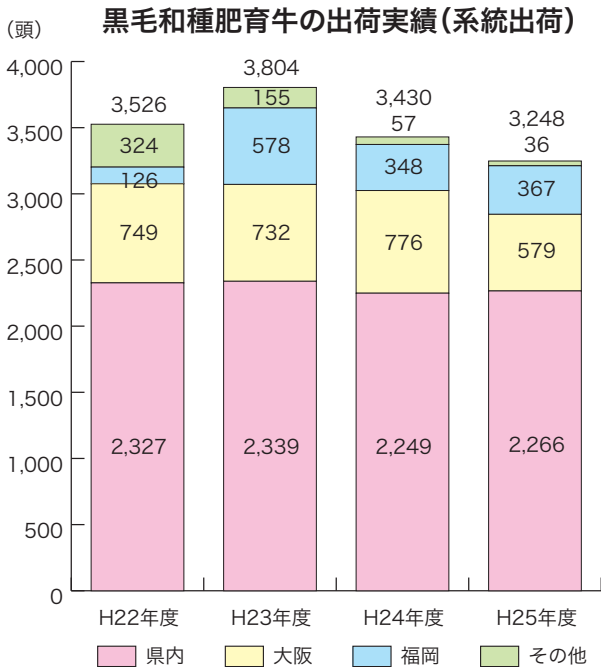


(正誤)「大分の畜産 2012」H21年大分県内と畜頭数のうち乳用種(交雑牛を含む)頭数 誤: 6,470頭 → 正: 6,449頭

資料: 農林水産省「畜産物流通統計」

H25年の成牛と畜頭数は6,144頭で前年比6.7%、H21年比35.0%減少し、特に乳用種(交雑牛を含む)の減少が多い。和牛と畜頭数はH22年以降はやや回復していたが、H25年は2,790頭と前年比283頭(9.2%)減少している。H25年の乳用種(交雑牛を含む)と畜頭数は3,354頭(うち乳牛2,119頭)で、前年の3,516頭(うち乳牛2,198頭)に比べ、4.6%減少した。

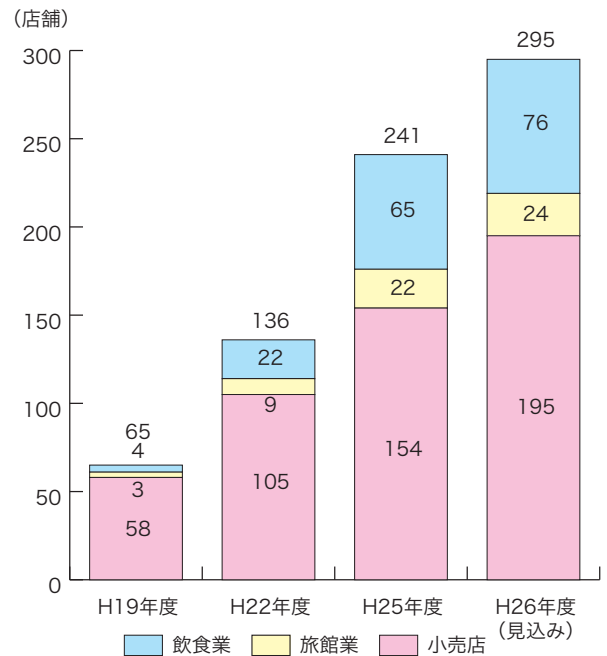
(8) 県産肉用牛(黒毛和種肥育牛)の流通



資料: 全農大分県本部

H25年度の黒毛和種肥育牛の出荷頭数(系統出荷)は3,248頭で、前年比94.7%と減少している。出荷頭数の都道府県別仕向け頭数は、大阪の出荷頭数が最も多く、県外出荷の58.9%を占める。近年、福岡向けの占める割合が増加しつつあり、H25年度は県外出荷の37%となっている。

(9) おおいた豊後牛取扱認定店舗数推移

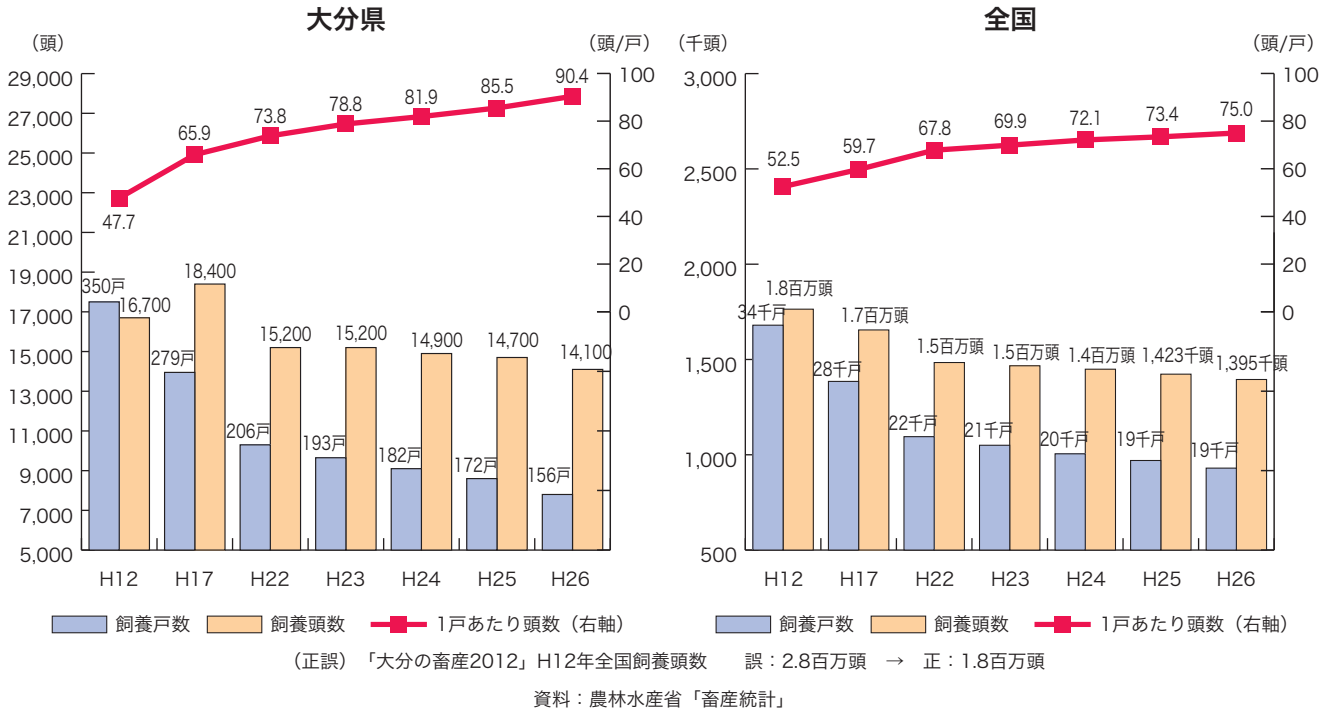


資料: 大分県豊後牛流通促進対策協議会

認定店制度はH19年度に始まり、認定店舗数は順調に増えてきている。業種別に最も多いのは小売店であり、66%を占めている。H25年度からH26年度(見込)にかけて最も伸び率が高いのは小売店で41店舗(26.6%)増加している。

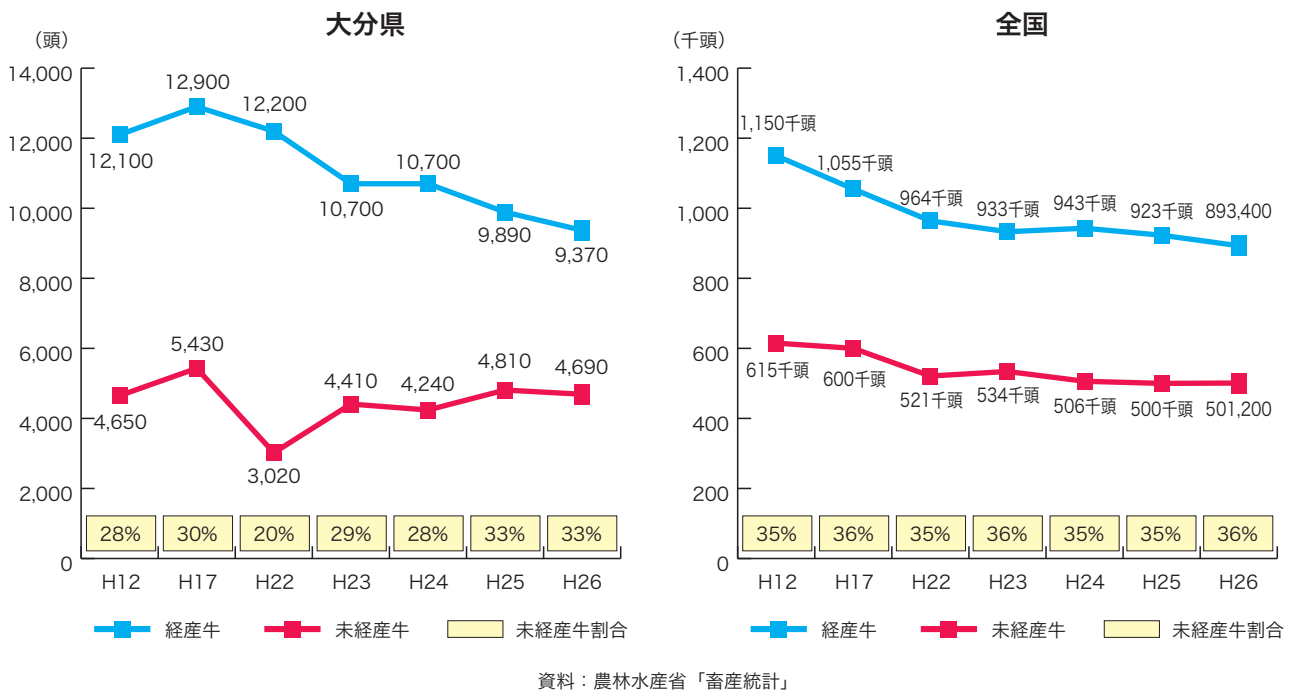
## 2. 乳用牛

### (1) 飼養戸数・頭数の推移



H26年2月1日現在の飼養戸数は156戸で前年に比べ16戸減少した。飼養戸数は減少を続けており、H12年比で44%まで減少している。  
飼養頭数は前年に比べ600頭（4%）減少し14,100頭となっている。H12年からH17年にかけて急速に規模拡大が進みH17年には18,400頭であったが、生産調整等の影響によりH17年比76%まで減少している。  
1戸あたり飼養頭数は順調に拡大しており、H12年には全国平均を下回っていたが、その後は常に全国平均を上回っている。

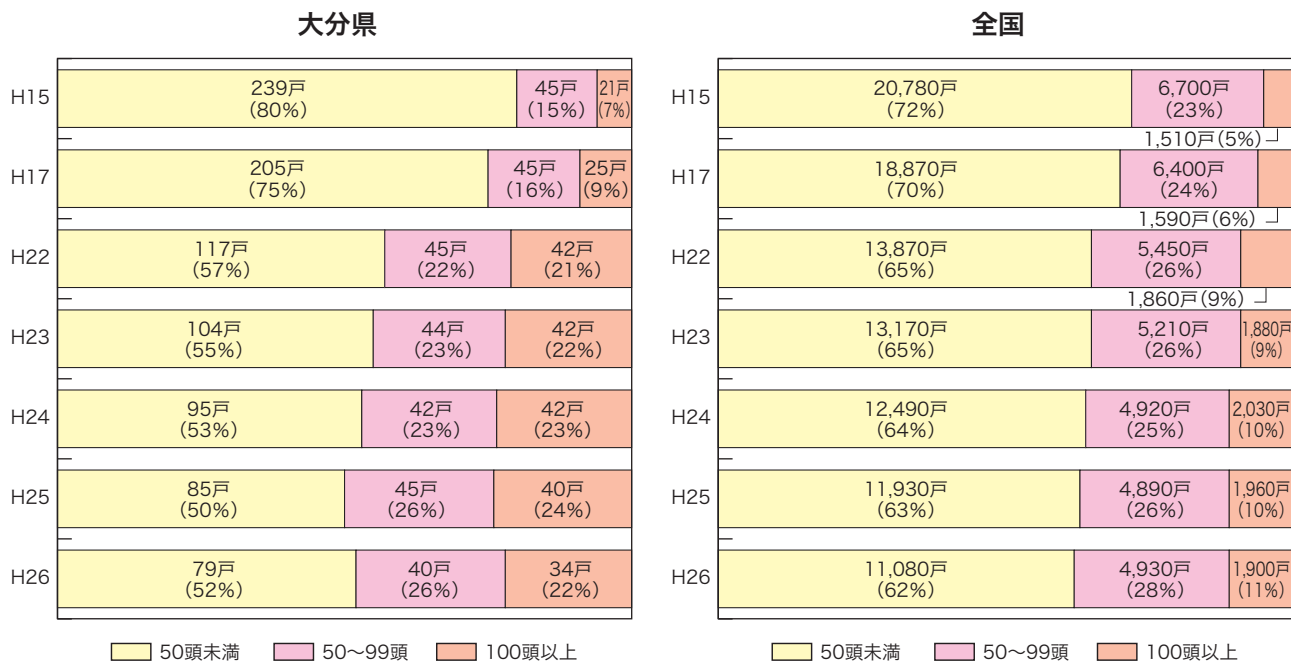
### (2) 用途別頭数の推移



(注1) 搾乳牛：経産牛のうち、搾乳中の牛のこと。  
(注2) 乾乳牛：経産牛のうち、搾乳していない牛のこと。分娩前乾乳と空胎乾乳がある。  
(注3) 未経産牛：出生してから分娩するまでの牛で、生後30ヶ月位までが主体。

大分県は全国に比べ未経産牛割合が低く、H22年には20%まで低下していたが、その後、上昇し、H26年は33%と、H12年以降最も高い水準となっている。

### (3) 成畜飼養頭数規模別飼養戸数の推移

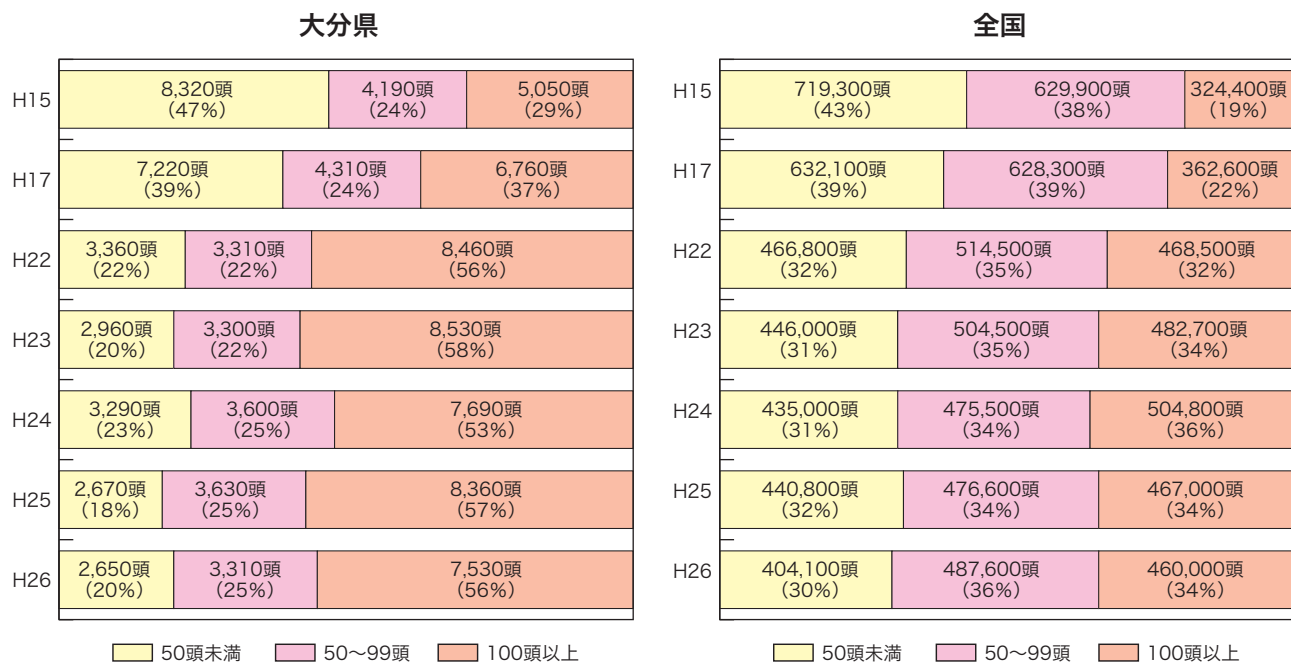


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H26年の100頭以上の戸数割合は22%であり、全国と同割合11%を大きく上回っている。

### (4) 成畜飼養頭数規模別飼養頭数の推移

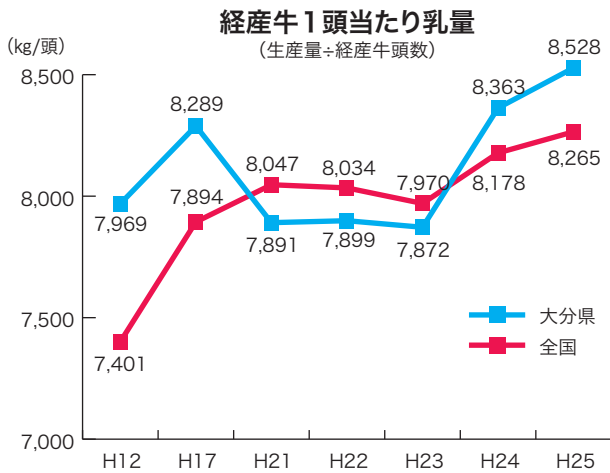
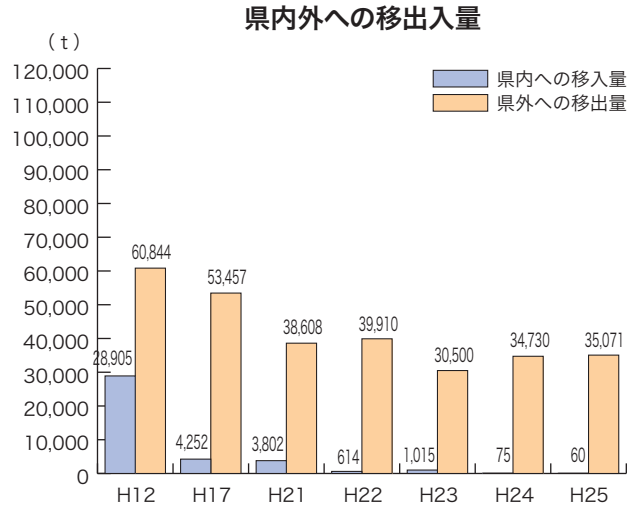
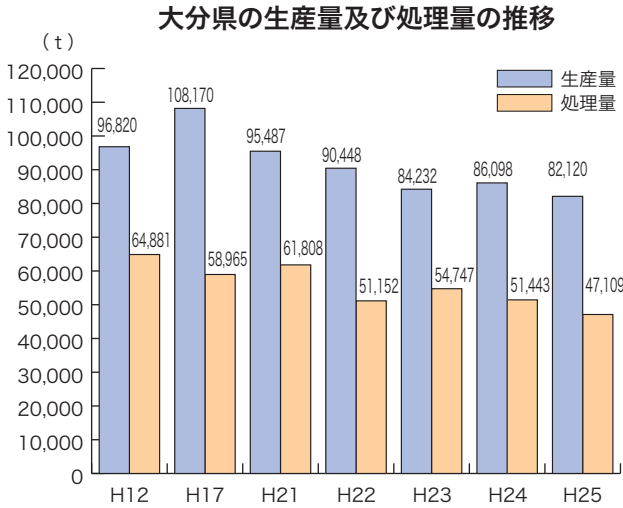


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H26年の100頭以上の飼養頭数は、7,530頭と前年に比べ830頭（9.9%）減少し、飼養頭数割合も前年の57%から56%へと減少した。  
全国では100頭以上の飼養頭数及び割合は前年と比べほぼ横ばいとなっている。

(5) 生乳生産量・処理量の推移



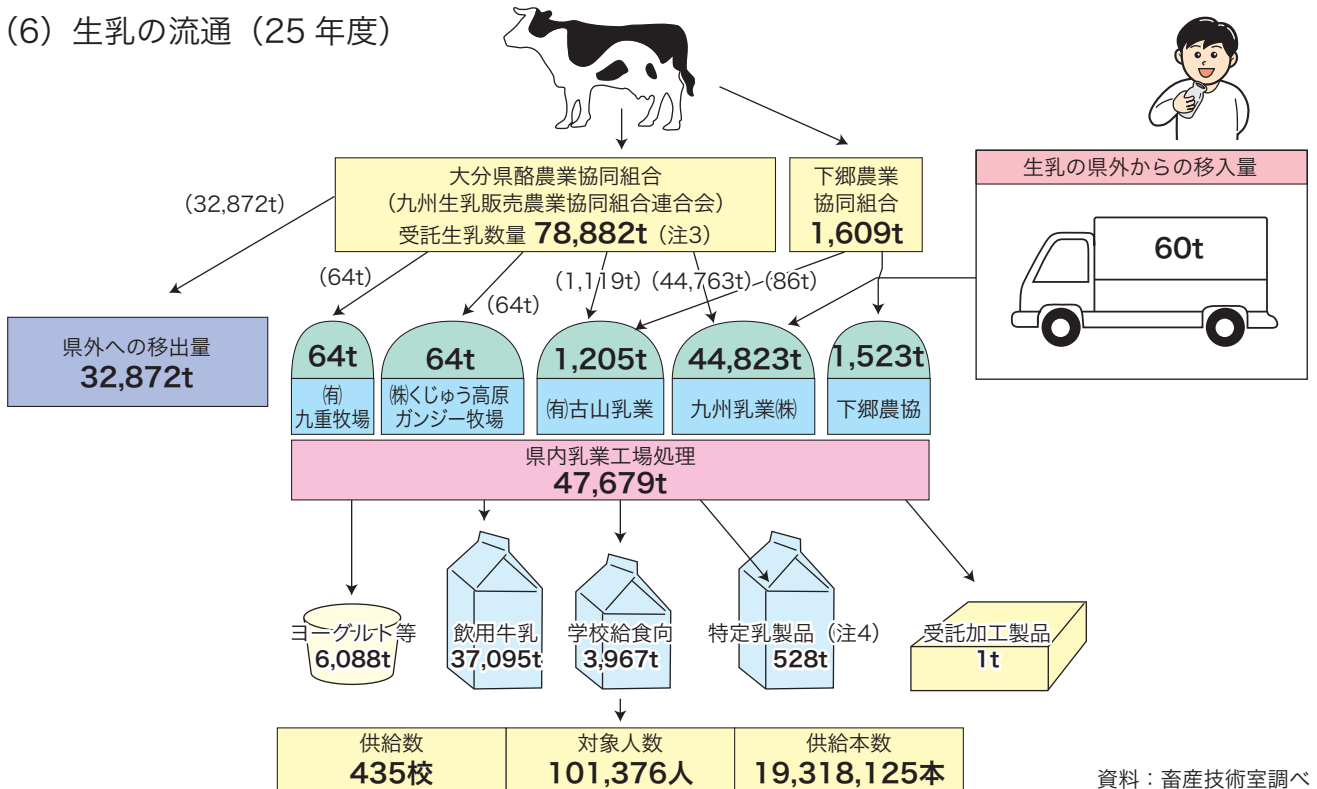
①生産量及び処理量  
生産調整開始後、生産量は減少しており、H25年は前年比3.978t (4.6%) の減少となっている。

②県内外への移出入量  
大分県は移入量に比べ移出量の多い輸出県であり、減少傾向であった移出量もH23年以降、増加に転じている。

③経産牛1頭あたり乳量  
大分県は生産調整開始後、飼養頭数と乳量枠とのバランスが崩れ、全国平均を下回ることとなっていたが、H24年以降は回復し、全国平均を上回っている。

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」より

(6) 生乳の流通 (25年度)



(注1) 生乳生産量：初乳を除く生乳(搾乳したままの乳用牛の乳)の総量であり、乳製品工場、牛乳処理場に出荷したもののほか、生産者の自家飲用、子牛ほ乳用等を含めたもの。

(注2) 生乳処理量：生乳を県内で乳製品向け、飲用牛乳向け、その他向け(自家飲料、子牛のほ乳用)に処理したものの量。

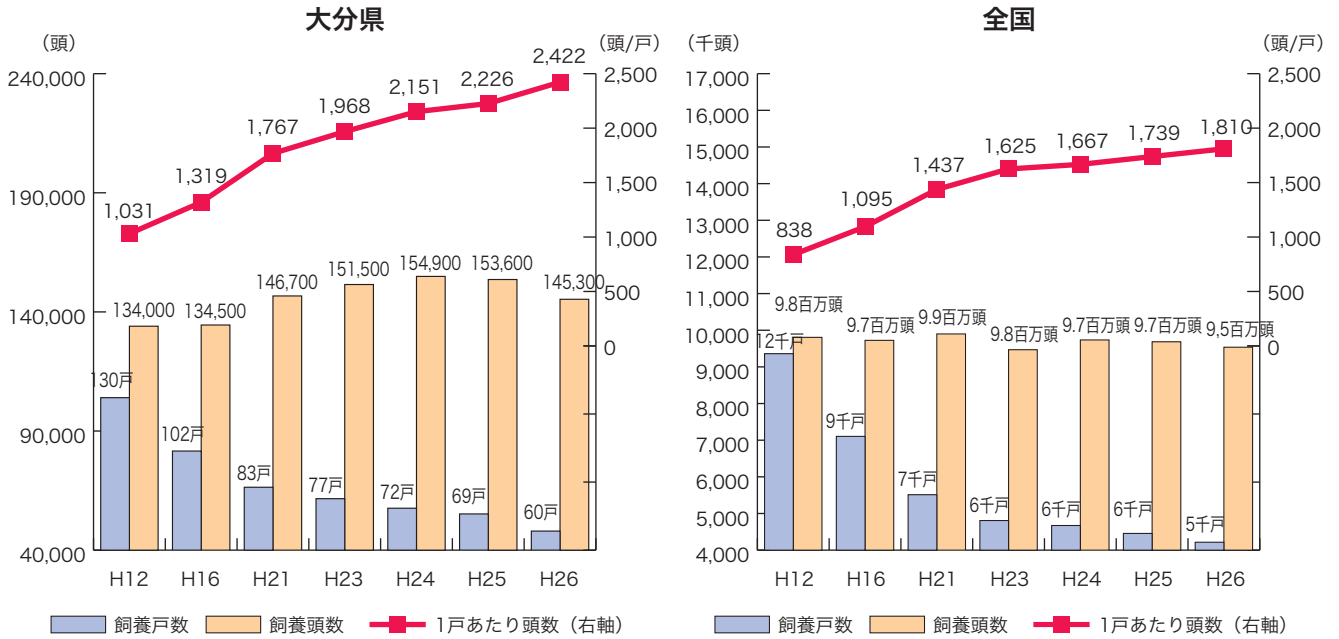
(注3) 受託生乳数量：酪農家が県酪協に委託して、九州生乳販売農業協同組合連合会に出荷した量。

(注4) 特定乳製品：全粉乳、脱脂粉乳、加糖粉乳、全脂加糖練乳、脱脂加糖練乳、全脂無糖練乳、バター及び子牛用の脱脂乳をいう。

(注5) 当該データはH25年度数値であり、農林水産省「牛乳乳製品統計」はH25年数値であるため、両者は必ずしも一致しない。

### 3. 豚

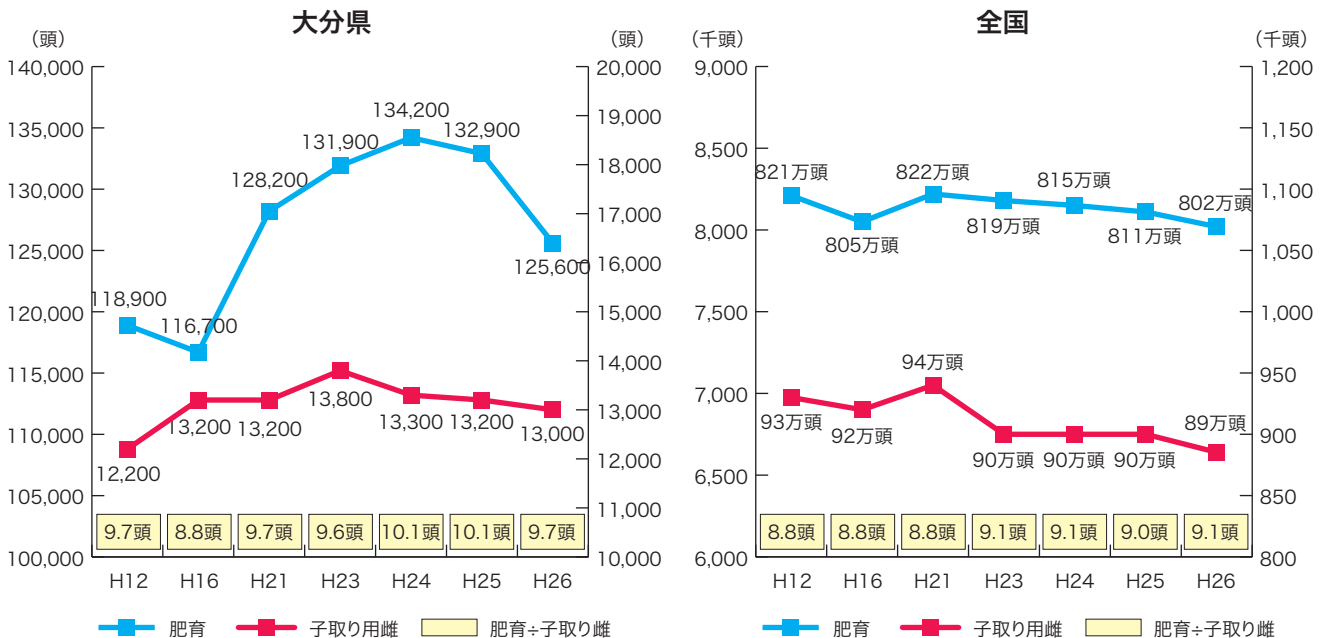
#### (1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

飼養戸数は60戸で前年に比べ9戸（13％）減少し、H12年比で46％まで減少したが、飼養頭数は145,300頭とH12年比で8％増加している。前年比では8,300頭（5.4％）と減少している。  
1戸あたり頭数においては全国と比べ規模拡大が進み、H26年には2,422頭と、H12年比234％と倍増した。

#### (2) 用途別頭数の推移



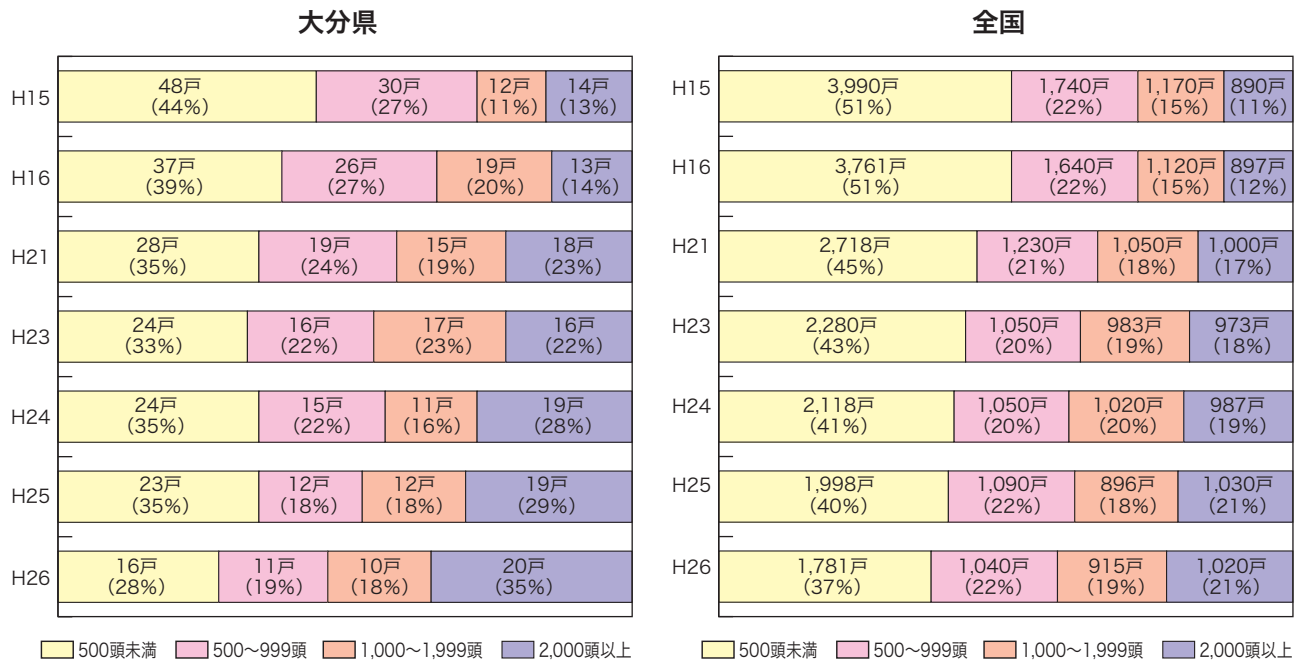
資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) H17年及びH22年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 子取り用めす豚とは生後6ヶ月以上で子豚を生産することを目的としているめす豚のこと。  
実際には過去に種付けたことのある豚及び近い将来種付けることが確定している豚のこと。

子取り用めす豚は13,000頭で前年に比べ微減であったが、1戸あたりの飼養頭数は260頭で前年に比べ10.1％増加した。  
肥育豚は125,600頭で前年比5.5％減少した。  
肥育豚頭数を子取り用めす豚頭数を控除した値は全国平均を上回っている。

### (3) 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数の推移

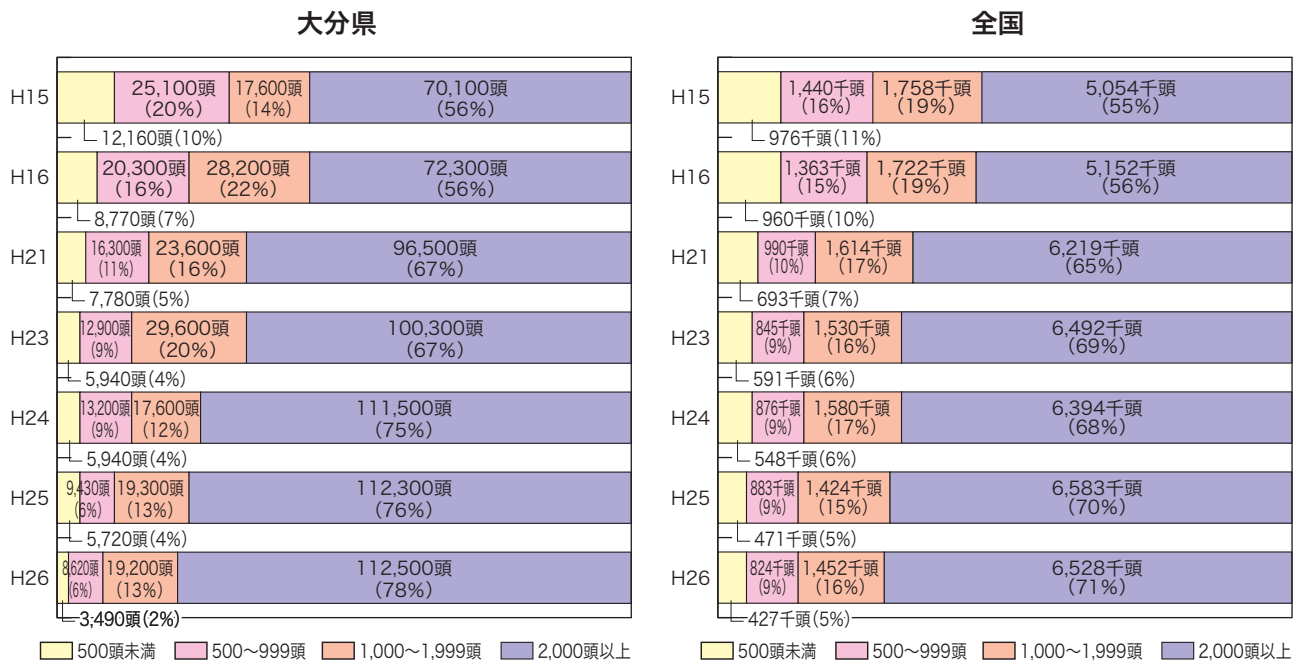


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。  
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

2,000頭以上の規模農家戸数割合はH15年の13%からH26年は35%まで増加し、1,000頭未満の割合は、H15年からH25年まで徐々に減少している。  
 2,000頭以上の農家戸数割合は、全国の21%より高く、大規模農家の割合が大きい。

### (4) 肥育豚頭数規模別飼養頭数の推移

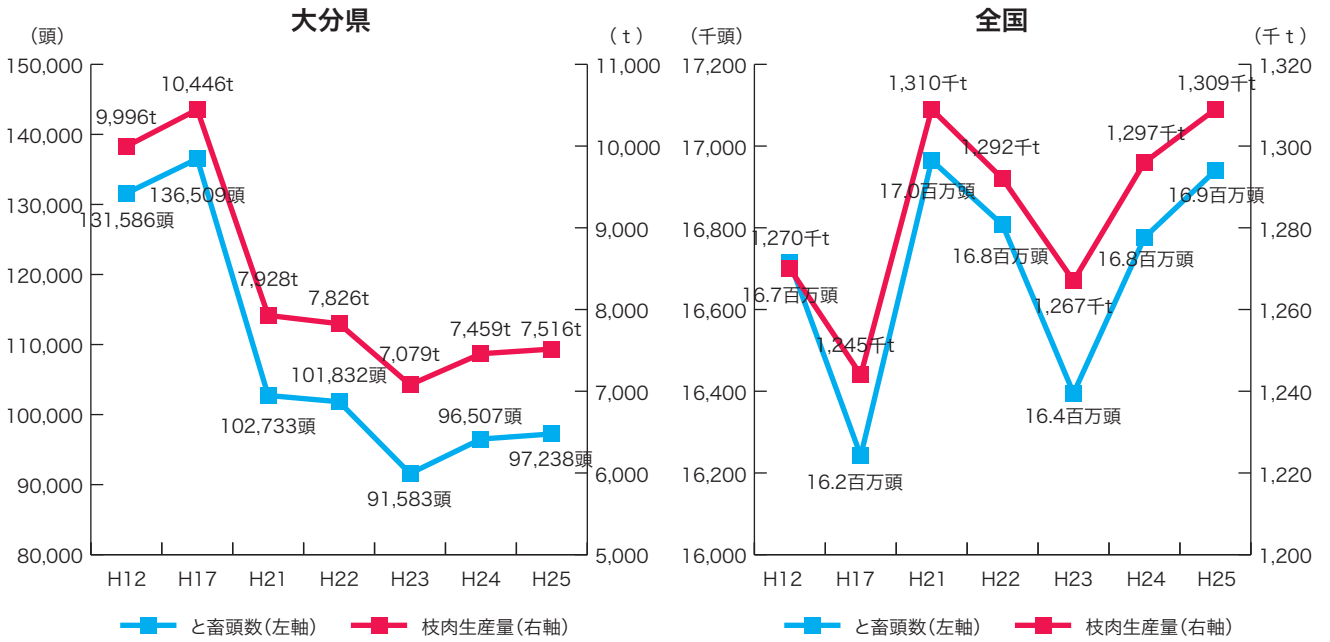


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。  
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

2,000頭以上の農家の飼養頭数割合は、H15年の56%からH25年には78%まで大幅に増加し、全国の71%より高く、規模拡大が進んでいる。

## (5) 肉豚のと畜及び枝肉の生産状況

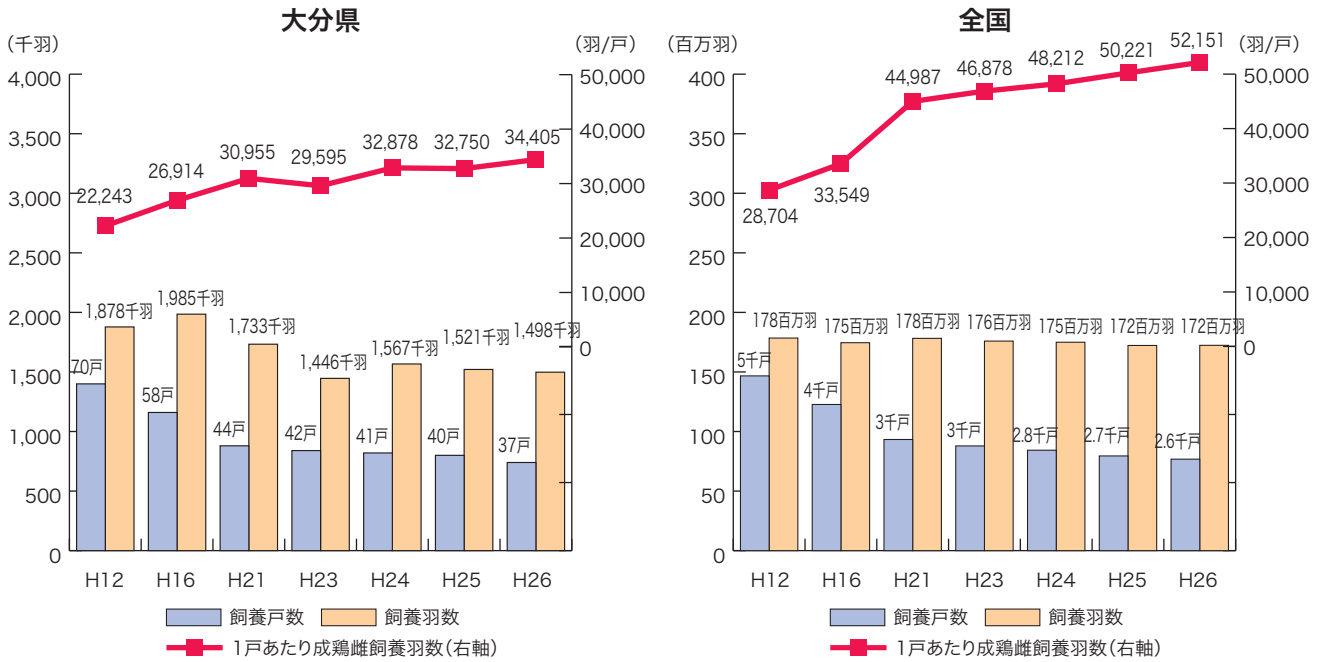


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

県内と畜頭数はH25年は97,238頭であり、前年に比べ731頭（0.7%）増加し、H12年比では73.9%まで減少している。一方で、県内肥育頭数はH26年は125,600頭と前年に比べ7,300頭（5.5%）減少したものの、H12年比では5.6%増加している。

## 4. 採卵鶏

### (1) 飼養戸数・羽数の推移

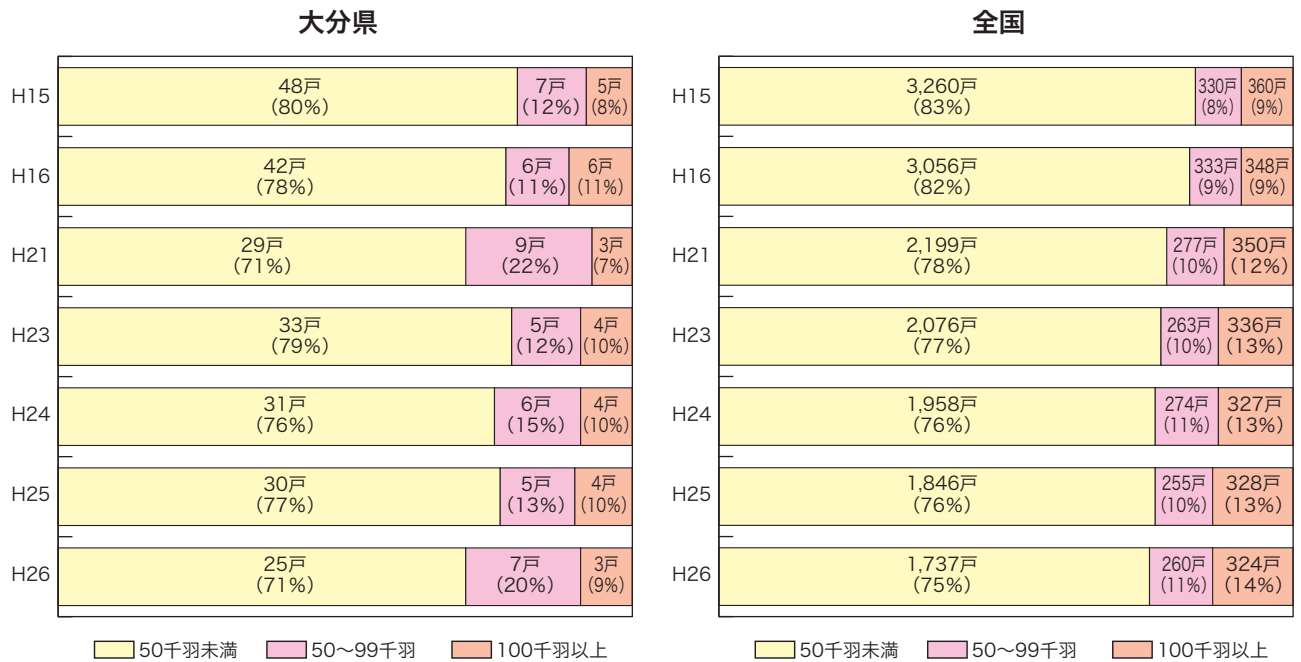


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注) 飼養戸数・羽数は種鶏のみの飼養戸数、種鶏の飼養羽数を除き、成鶏めす羽数は1,000羽未満の飼養戸数・羽数を除く。H17・22年はセンサス年のため調査無し。

H26年の飼養戸数は37戸と前年に比べ3戸減少し、飼養羽数は1,498千羽で同23千羽（1.5%）減少している。1戸あたり成鶏めす飼養羽数は、H25年は1,655羽（5.0%）増加し34,405羽となっている。一方、全国の1戸あたり成鶏めす飼養羽数はH26年には52,151羽であり、大分県を151%と大きく上回っている。

## (2) 成鶏めす羽数規模別飼養戸数の推移

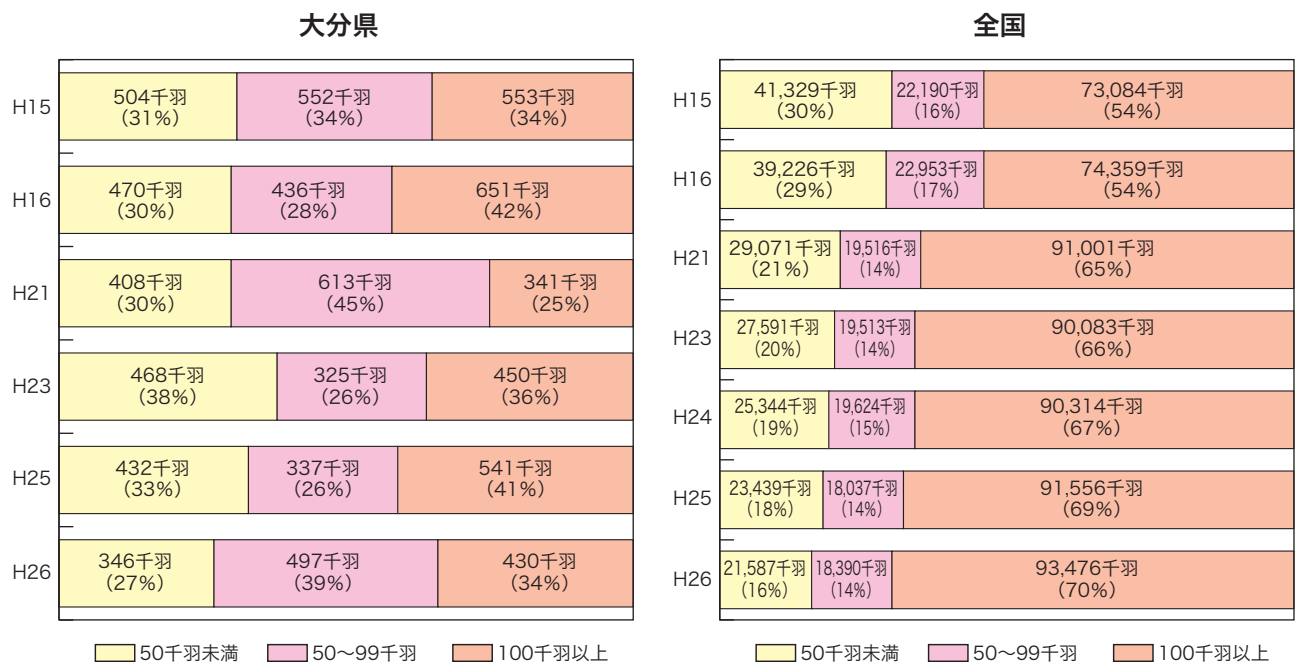


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。  
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

年により若干の増減はあるものの、各階層の飼養戸数割合にはここ数年大きな変化はない。  
 100千羽以上規模の大分県における戸数割合は、H26年時点で9%であり、全国（14%）を下回っている。

## (3) 成鶏めす羽数規模別成鶏めす飼養羽数の推移



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

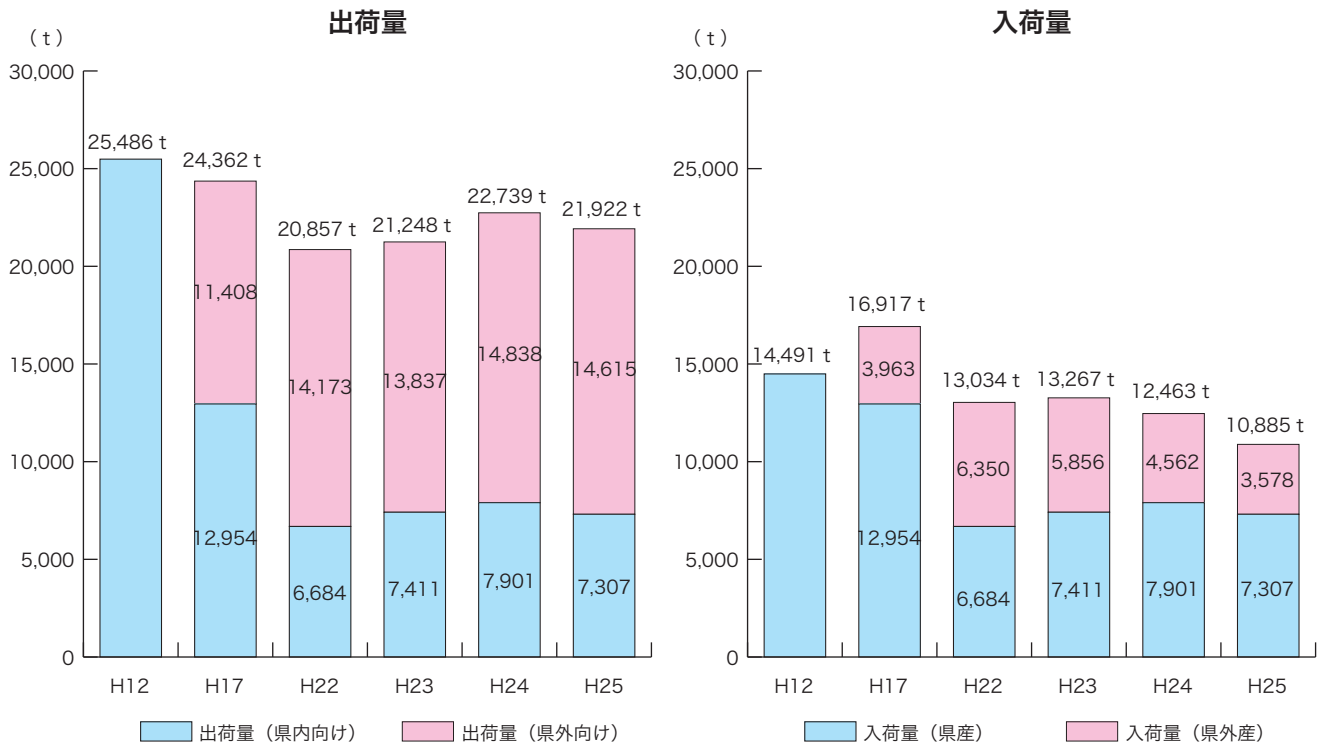
(注1) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。  
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

(注1) H24年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

年によって増減はあるものの、特定の傾向を読み取ることはできない。  
 全国的には緩やかながら規模拡大が進んでいる。  
 大分県のH26年100千羽以上農家の羽数割合は34%であり、全国（70%）を大きく下回っている。



#### (4) 鶏卵の流通状況



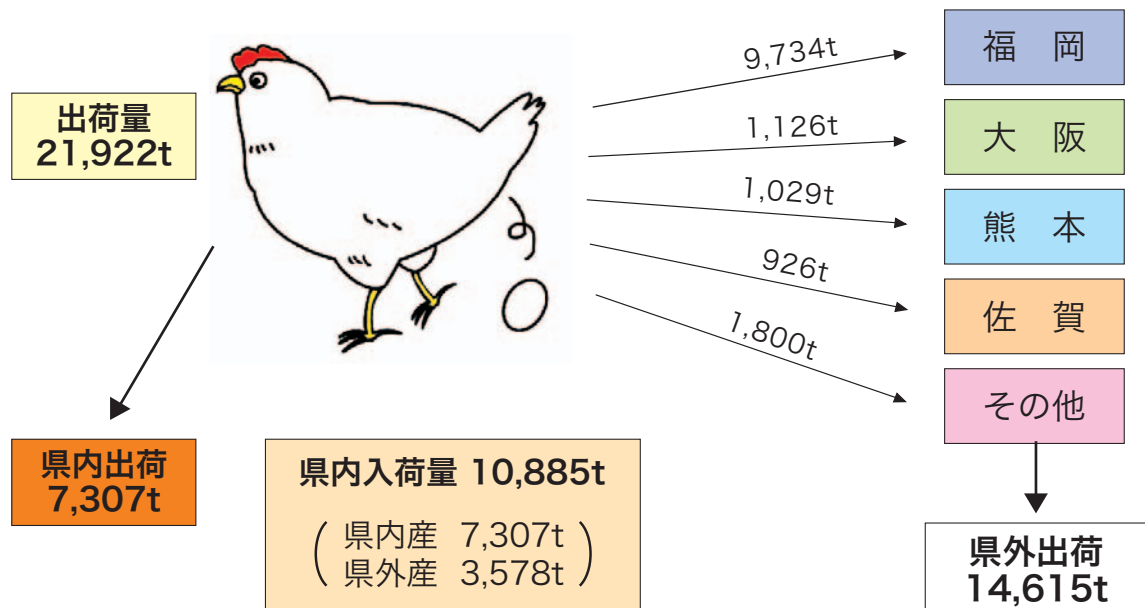
資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) H12年は県内、県外の別が分からないため、出荷量又は入荷量の合計のみを記載

(注2) 鶏卵生産量：一般用食用、加工用、種卵等として生産された鶏の卵をいう。

(注3) 鶏卵出荷量：一般用食品及び加工用として販売した鶏卵の数量をいい、生産者が自家消費した数量及び種卵、その他の数量は出荷量に含まれない。

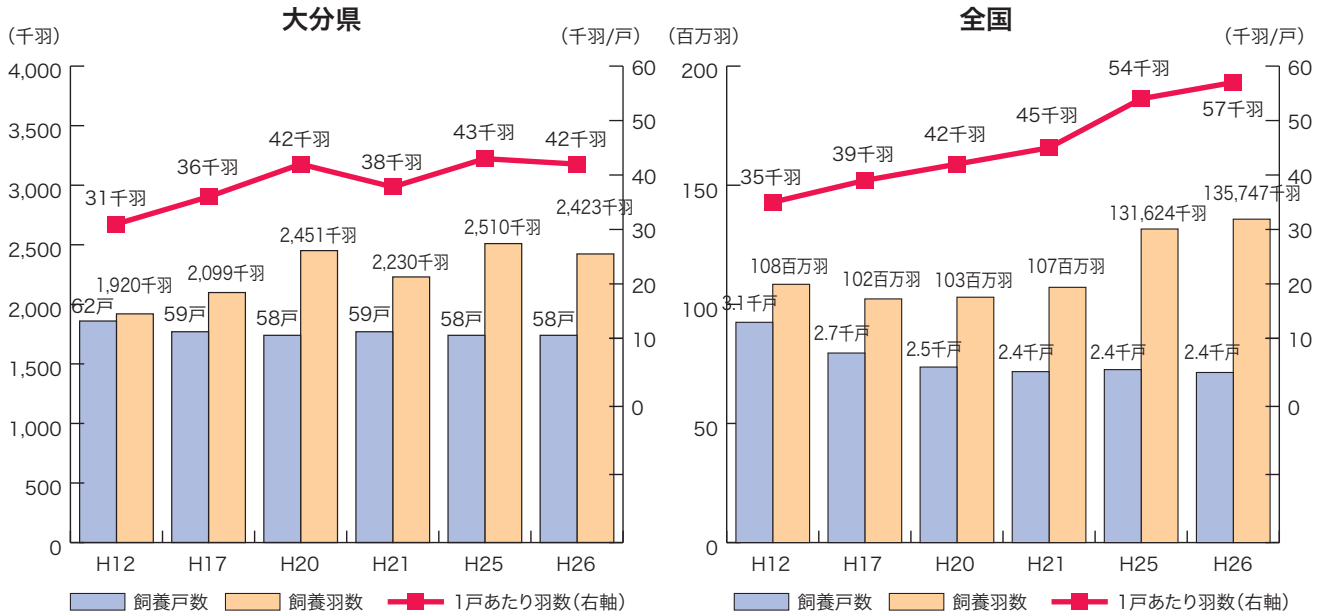
H25年出荷量は前年に比べ817t (3.6%) 減少している。  
 出荷量のうち過半数は県外向けであり、H25年は14,615tと全体の66%を占めている。  
 入荷量は減少傾向にあり、H25年は前年に比べ1,578t (12.6%) 減少している。  
 入荷量に占める県外産の割合はH25年で32.8%と前年に下がっている。



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

## 5. プロイラー

### (1) 飼養戸数・羽数の推移



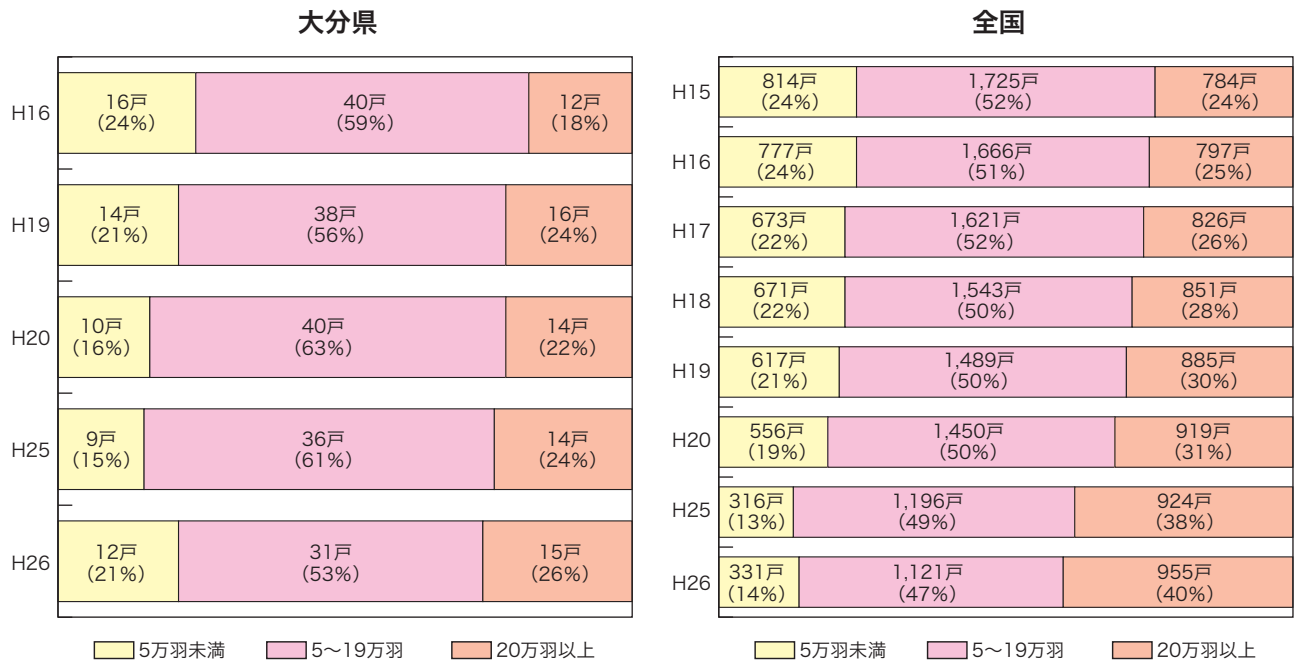
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) この統計は、2月1日現在のプロイラー飼養戸数及び飼養頭数を調査したもので、一時的に鶏舎消毒のためオールアウトしていた等により、プロイラーを飼養していない飼養者は除外したものである。

(注2) H22年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。

飼養戸数は横ばいであったものの、飼養羽数はH26年2,423千羽と前年に比べ87千羽（3.4%）減少し、1戸あたり飼養羽数も1千羽/戸（2.3%）減少している。ただし、全国は前年に比べ飼養羽数（3.1%）、1戸あたり飼養羽数（5.5%）共に増加している。

### (2) 出荷羽数規模別出荷戸数の推移



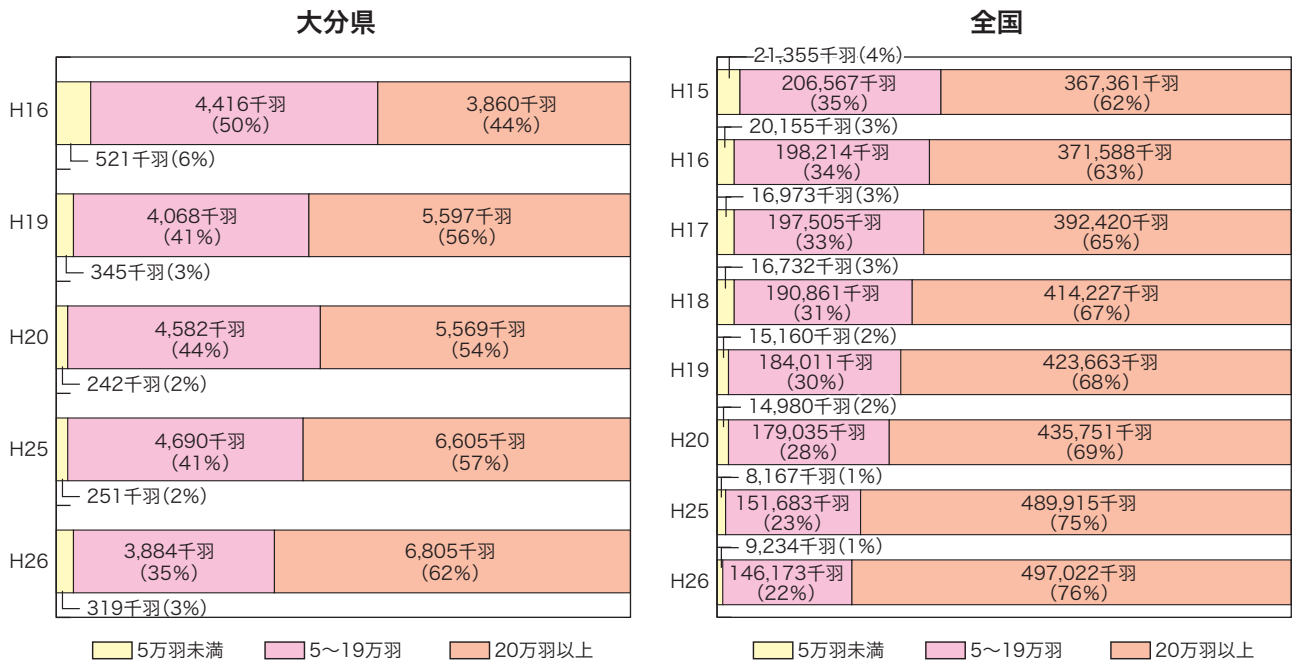
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

(注2) H21年からH24年は調査が行われなかったが、H25年から再開されている。

H26年の20万羽以上規模の戸数は15戸と前年に比べ1戸増加している。全国ではH26年に955戸と前年に比べ31戸と大幅に増加しており、規模拡大が進んでいる。

### (3) 出荷羽数規模別出荷羽数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。  
 (注2) H21年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。

H26年の20万羽以上規模農家の飼養羽数は6,805千羽であり、前年に比べ200千羽（3%）増加している。  
 全国ではH26年に497,022千羽となり、前年に比べ7,107千羽（1.4%）増加している。



オレイン和牛の饗宴2014（ホテルニューオータニ大阪にて）



肥育牛への飼料用米給与の様子（センター畜産研究部にて）

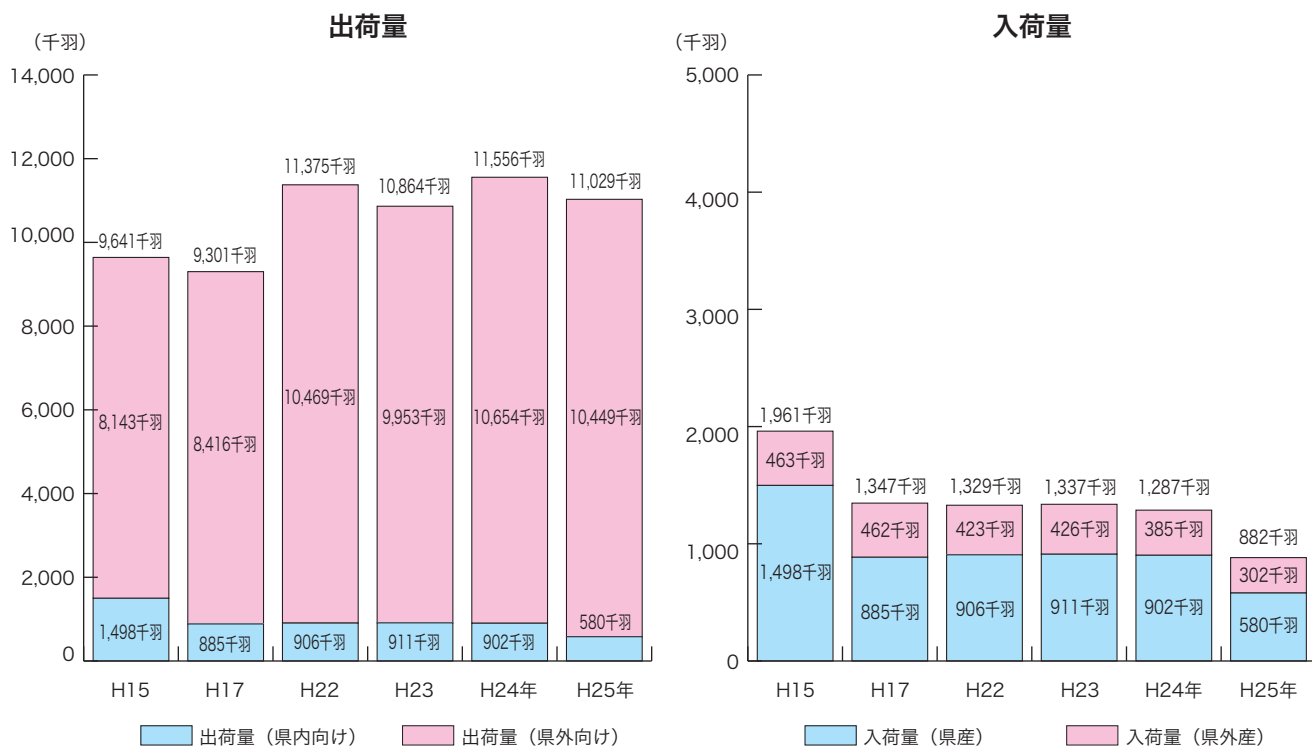


ヤフオドームにおける「おいた豊後牛」PR



肉用牛ゼミナール流通研修（大阪の食肉業者との意見交換会）

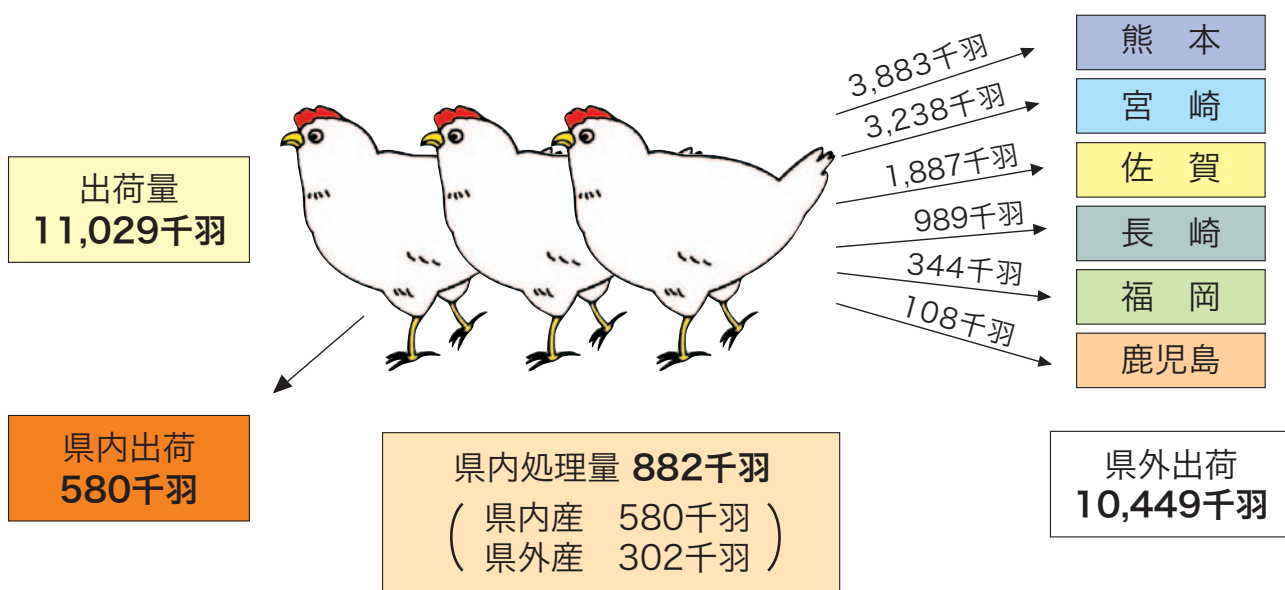
#### (4) ブロイラーの流通状況



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) 出荷量：飼養から食用に供するために食鳥処理場へ出荷された食鳥（生体）をいい、生産者が自家消費した量は含まれない。  
 (注2) 食鳥処理上：食用に供する目的でと鳥処理を行っている事業所（飼養者が自家用としている場合は含まない）のこと。

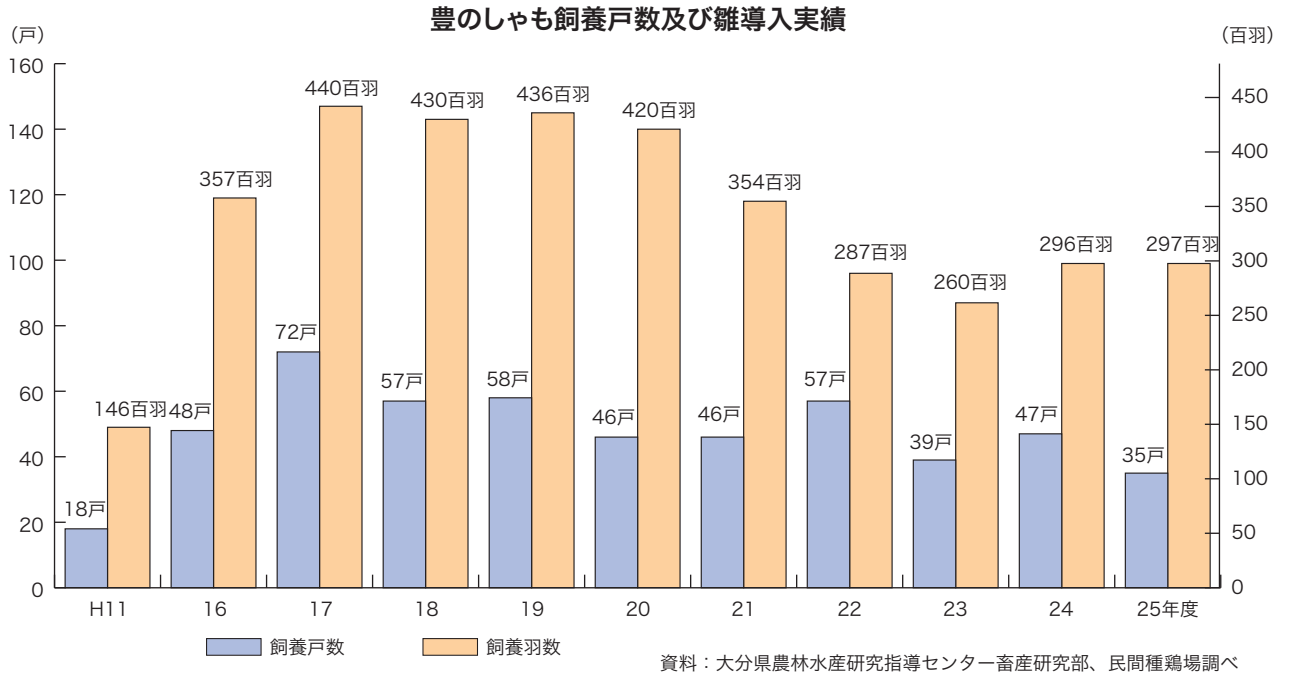
H25年の出荷量は11,029千羽であり、前年に比べ527千羽（4.5%）減少している。  
 出荷先は県外が主であり、25年の県外割合は94.7%となっている。  
 H25年入荷量は882千羽と前年に比べ405千羽（31.4%）と大きく減少している。



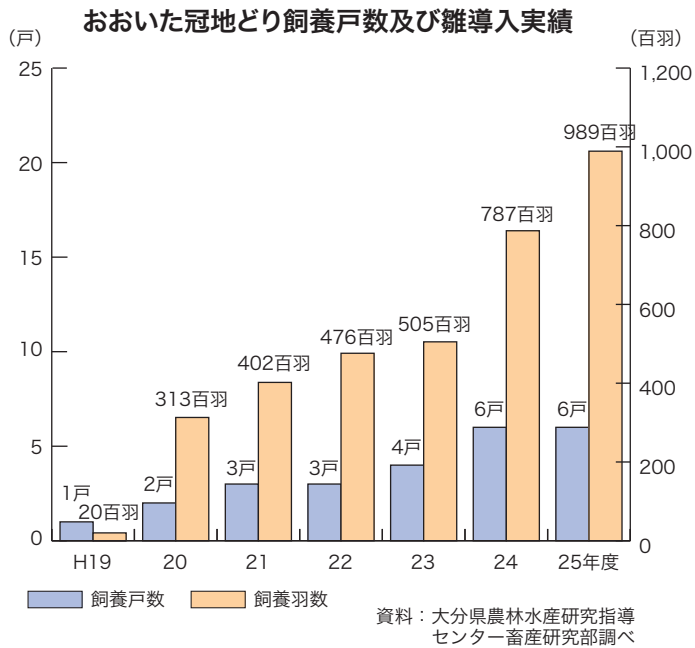
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

## 6. 地鶏

### (1) 豊のしゃも



### (2) おおいた冠地どり



### (3) 地鶏取扱店

#### ①豊のしゃも取扱店 (H26.8現在)

・県内卸小売店	18店 (15店：120%)
・県内料理店	44店 (39店：113%)
・県外卸小売店	8店 (8店：100%)
・県外料理店	24店 (24店：100%)
計	94店 (86店：109%)

※( )内はH24年8月時点の店舗数及びH24年8月からH26年8月にかけての伸び率

#### ②おおいた冠地どり取扱店 (H26.10現在)

・県内卸小売店	71店 (52店：137%)
・県内料理店	288店 (233店：124%)
・県外卸小売店	38店 (21店：181%)
・県外料理店	56店 (39店：144%)
・その他	— (61店：—%)
計	453店 (406店：112%)

※( )内はH24年8月時点の店舗数及びH24年8月からH26年10月にかけての伸び率 (%)

※その他は学校給食等。H26年10月は調査していない。

#### ①豊のしゃも

飼養戸数は35戸であり、前年に比べ12戸(25.5%)減少しており、飼養羽数は297百羽と微増となっている。H17年のピークに比べ、飼養戸数で48.6%、飼養羽数で67.5%まで減少している。

#### ②おおいた冠地どり

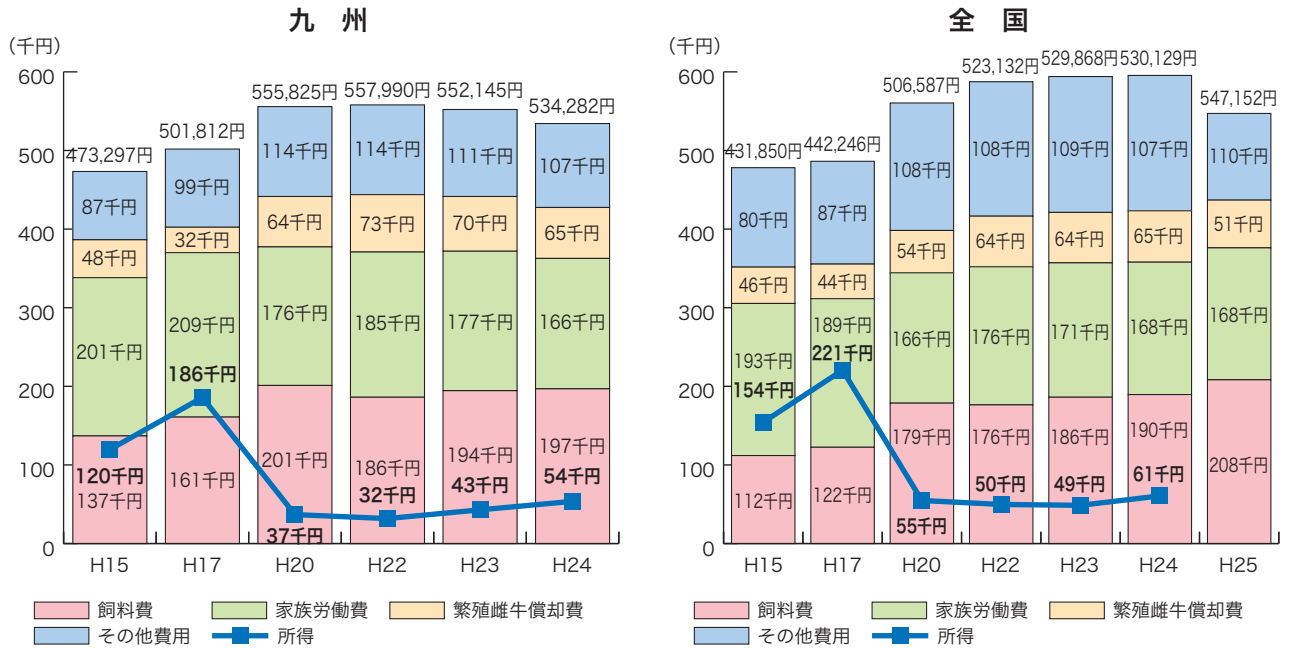
H25年度の飼養羽数は989百羽であり、前年に比べ202百羽(25.6%)増加している。飼養戸数は横ばいとなっている。

#### ③地鶏取扱店

豊のしゃも取扱店、おおいた冠地どり取扱店共に、H24年に比べ増加しているが、特におおいた冠地どり取扱店の伸びが大きく県内外合計で450店舗を超えている。

## 7. 生産費と所得の推移

(1) 子牛の生産費（子牛1頭あたり）と所得（繁殖雌牛1頭あたり）の推移

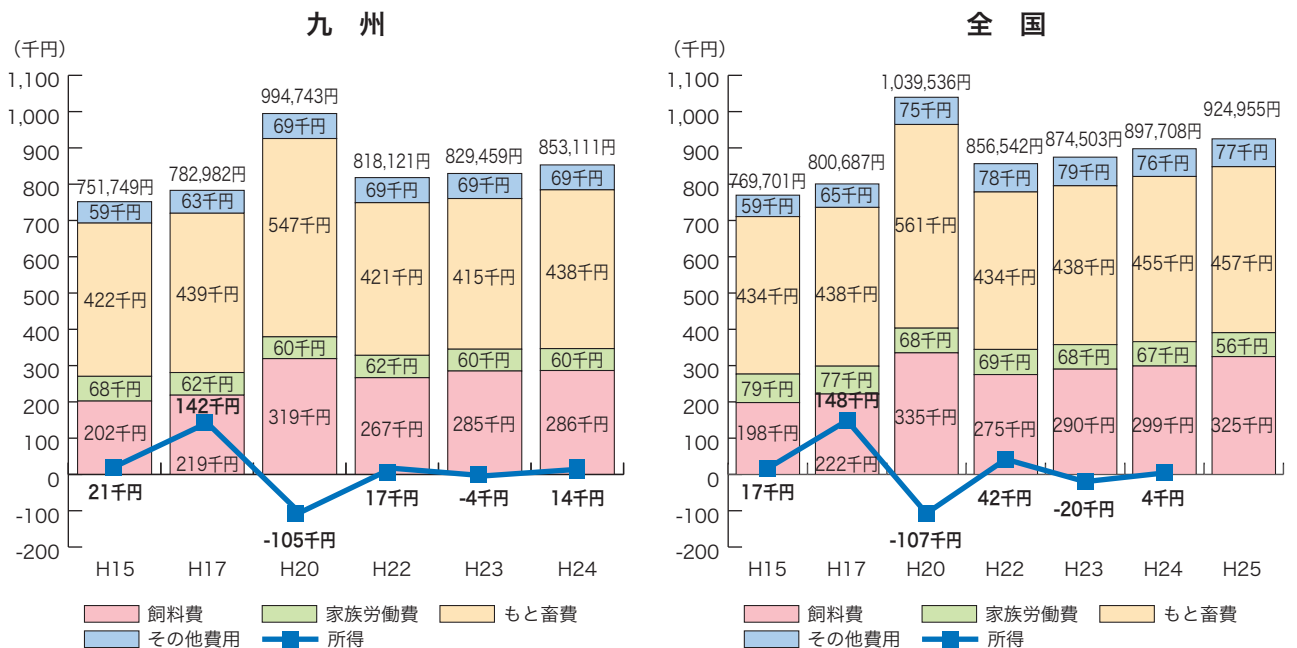


資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2014 作成時点において、H25 年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

H24年の生産費合計は534,282円であり前年に比べ17,863円（3.2%）減少し、所得は53,684円であり同10,803円（25%）増加している。近年の動向として最も顕著なのは飼料費の高騰であり、H24年飼料費は196,815円とH15年に比べて59,905円（43.7%）高くなっている。H24年について全国と比較すると、九州は生産費が4,153円高く、所得は6,930円低くなっている。

(2) 肥育牛生産費と所得の推移（去勢肥育牛1頭当たり）

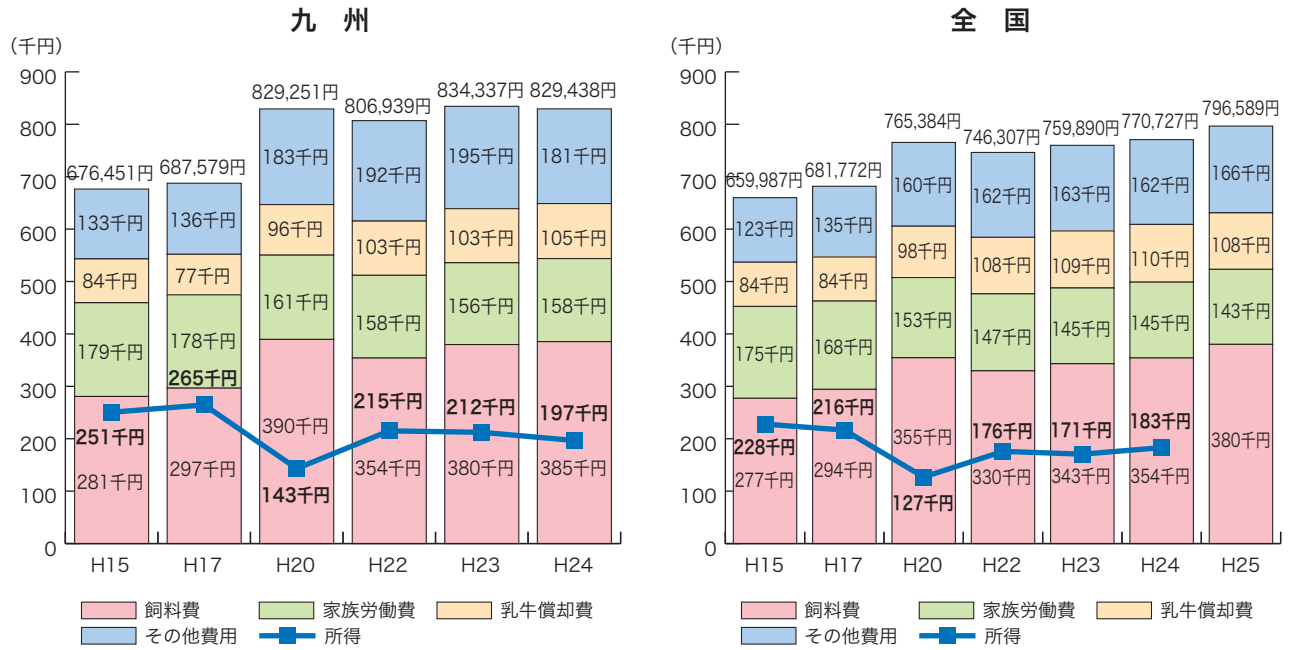


資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2014 作成時点において、H25 年数値は全国数値の一部のみ公表されている。

H24年の生産費は853,111円であり、前年に比べ23,652円（2.8%）増加し、所得は14,036円と同17,841円増加し赤字から黒字へと転換している。生産費で最も大きな割合を占めるもと畜費が前年比22,275円（5.3%）増の437,537円となり、飼料費も1,403円（0.5%）増加しており、特にもと畜費の増加が所得を圧迫している。H24年所得は全国が九州を大きく下回る3,871円となっている。H25年(全国数値の一部のみ公表)はもと畜費はやや増加しているが、飼料費が大きく増加している。

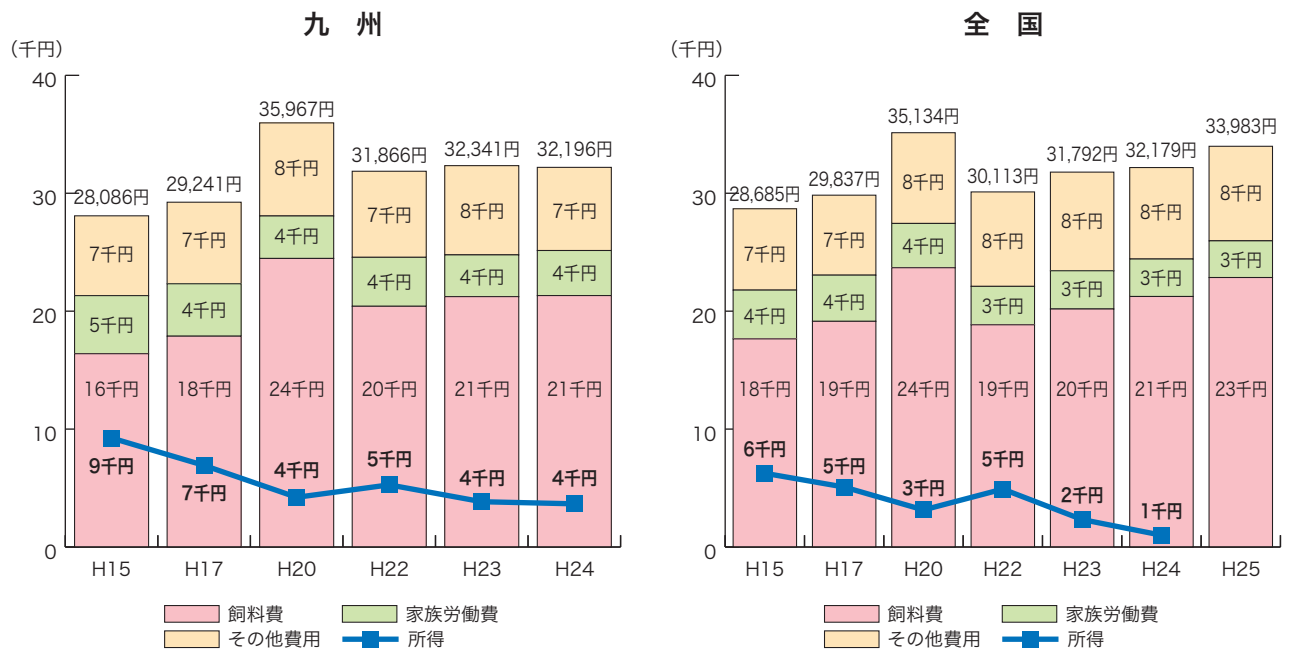
### (3) 生乳生産費と所得の推移（搾乳牛通年換算1頭当たり）



資料：農林水産省「経営統計」

H24年の生産費合計は829,438円であり、前年に比べ4,899円（0.5%）減少し、所得は196,601円と同15,710円（7.4%）減少している。  
九州の生産費は全国に比べ高くなっているが、所得についても全国を上回っている。  
H25年(全国数値の一部のみ公表)は生産費が796,589円と前年に比べ25,862円（3.3%）増加しているが、これは飼料費が380,092円と同25,971円（7.31%）増加した影響によるものである。

### (4) 肥育豚生産費と所得の推移（肥育豚1頭当たり）

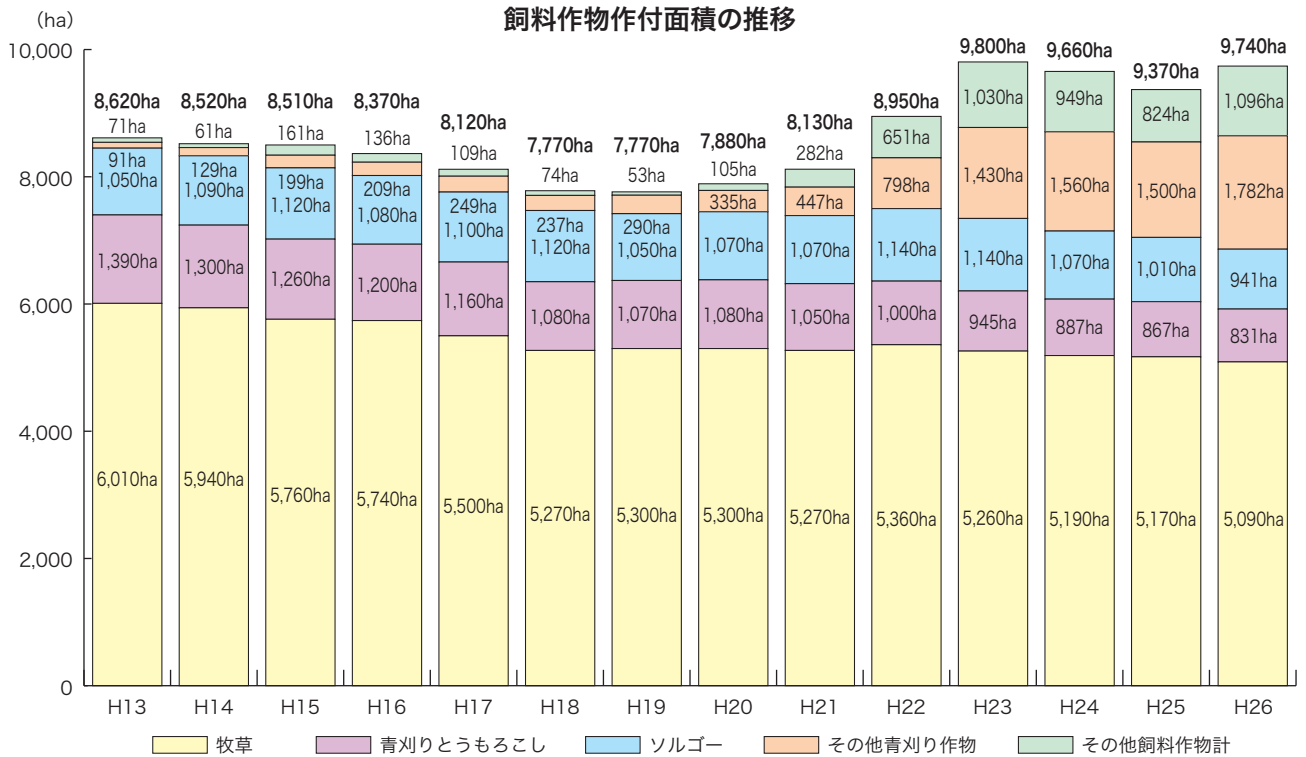


資料：農林水産省「経営統計」

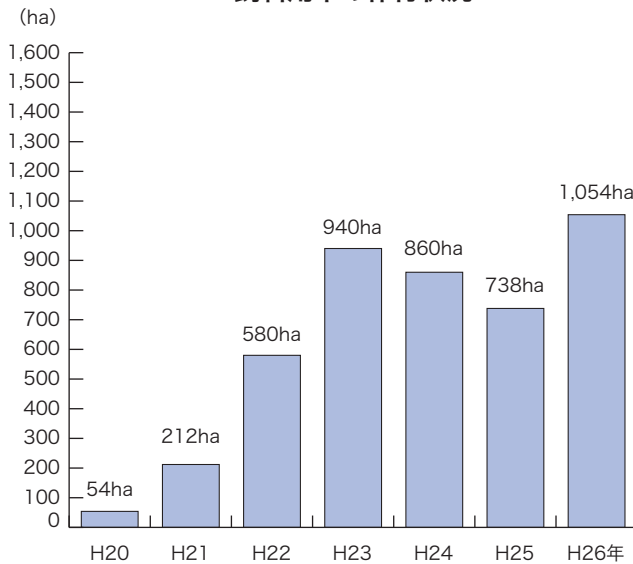
H24年の生産費合計は32,196円、所得は3,664円といずれも前年から横ばいとなっている。  
養豚経営の生産費では飼料費が占める割合が最も大きく、H24年で66.2%を占めている。  
H25年（全国数値の一部のみ公表）は飼料費が増加している。

# Ⅲ 飼料

## 1. 飼料作物作付状況

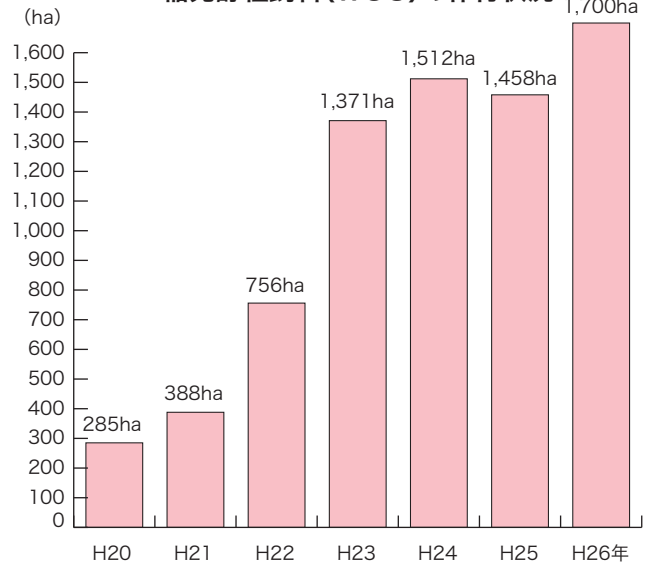


**飼料用米の作付状況**



(正誤) H25年数値は「大分の畜産2013」で示されたものから、飼料用米は下記の通り修正  
 【飼料用米】 誤：735ha → 正：738ha

**稲発酵粗飼料(WCS)の作付状況**



資料：畜産技術室調べ

**①飼料作物作付面積**

H26年の作付け面積は9,740haであり、前年に比べ370ha (3.9%) 拡大した。

**②飼料用米の作付状況**

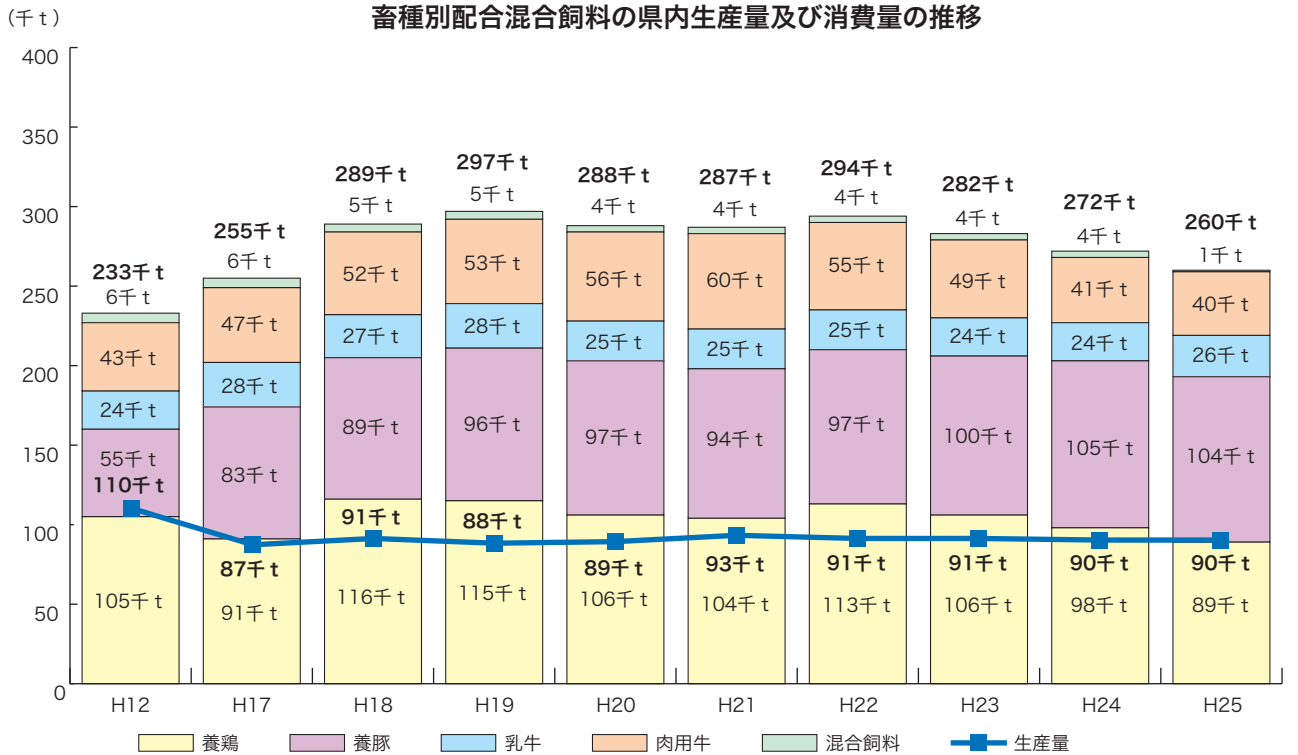
H20年より右肩上がりで作付面積の拡大が進んでおり、H24、25は減少したものの、H26は拡大に転じ、1,054haとなっており、前年に比べ316ha (42.8%) 増加する見通しとなっている。

**③稲発酵粗飼料(WCS)作付状況**

H26年の作付面積は1,700haであり、前年に比べ242ha (16.6%) 増加している。



## 2. 配合混合飼料



資料：飼料月報

(注) 混合飼料：行政や流通の上から、ある特定成分の補給又は輸入関税の免税措置を受けられることを目的に製造される配合飼料の一種。  
 配合飼料：2種類以上の飼料原料を一定の割合で混合した物。我が国では一般に家畜・家さんの種類や飼料目的に応じて、必要な養分を十分含むように市販されているものが多い。  
 四捨五入の関係で内訳の計は必ずしも総数に一致しない。

県内の全畜種における配合混合飼料の総消費量はH19年以降減少傾向にあり、H25年はH24年比95.6%の260千tまで減少している。

畜種別の消費量は肉用牛、乳牛、養鶏で飼養頭羽数の減少により消費量は減少傾向にあるが、養豚は飼養頭数の増加により消費量がH21年以降増加傾向で推移している。

また、配合混合飼料の県内生産量は、ここ数年ほぼ横ばいとなっている。

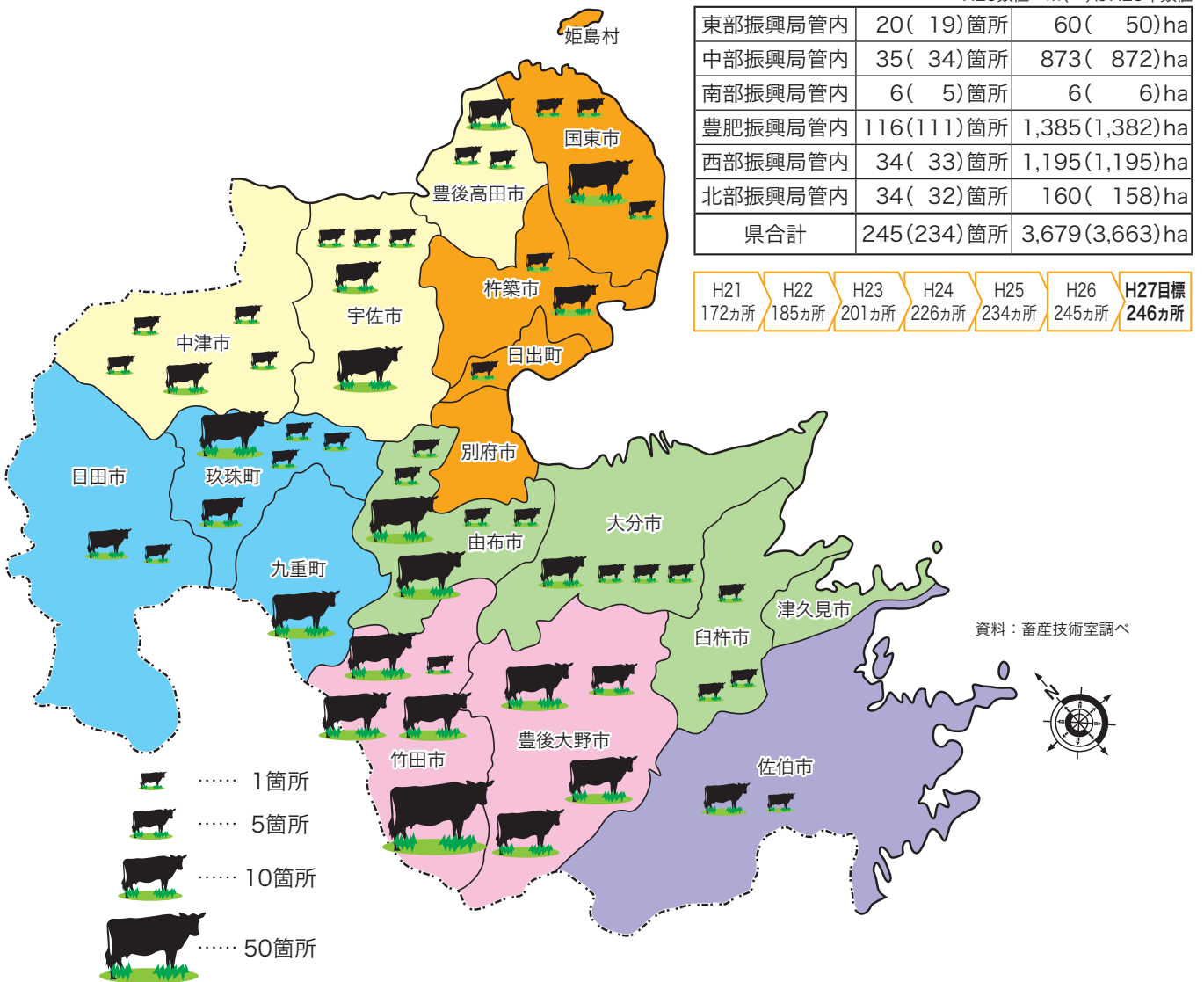


耕作放棄地を有効活用した  
低コスト・省力的な周年放牧の実践

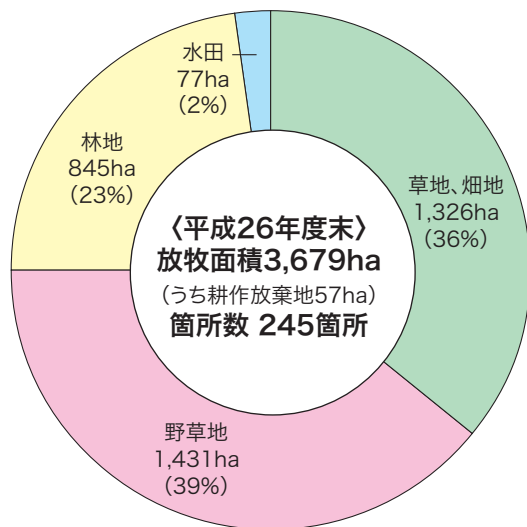


### 3. 放牧取組状況

#### (1) 大分県における「おおいた型放牧」分布図



#### (2) おおいた型放牧面積の地目別内訳



おおいた型放牧は耕作放棄地の解消や、繁殖雌牛の飼養管理の省力化を目的として、近年、導入地区が大きく増えている。特に耕作放棄地解消を目的に集落単位で取り組む例が多く、地目別面積の内訳でも野草地1,431ha (39%)と林地845ha (23%)で全体面積の半数以上を占めている (62%)。また、「おおいた型放牧」の優良事例である豊後高田市 富貴茶園の取組が、平成26年度全国自給飼料生産コンクールにおいて、農林水産大臣賞を受賞した。「おおいた型放牧」の有効性が実証されたものであり、今後も普及を図っていく。



知事への受賞報告

# IV 家畜衛生・畜産環境

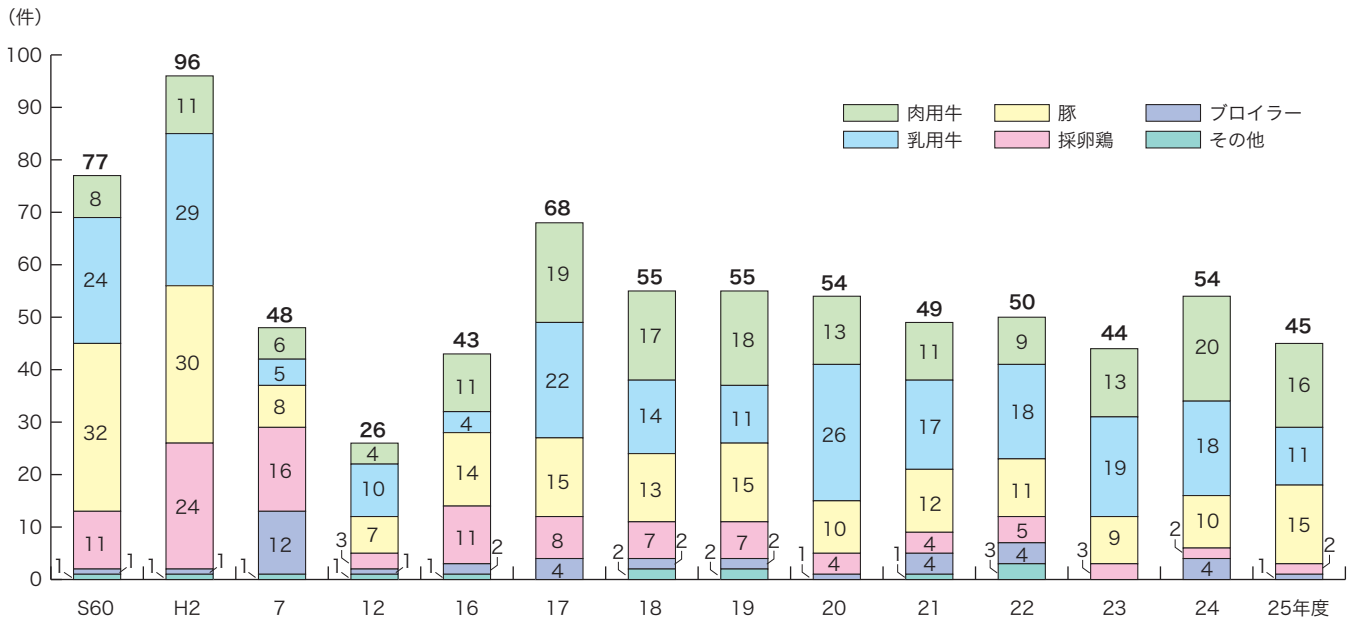
## 1. 監視伝染病の発生状況

区分	監視伝染病																																				
	法定伝染病										届出伝染病																										
	炭疽	結核病	ヨネ病	性馬貧血	豚コレラ	ツヌルカ	ネラ感染症	家きんサルモネラ	高病原性鳥インフルエンザ	ふそ病	TSE	アカバネ病	鼻気管炎	牛白血病	牛ス感染症	アイノウイ	病イバラキ	破傷風	気腫疽	ネオスポラ症	下痢粘膜炎	牛ウイルス性	キース	胃腸炎	性下痢	豚丹毒	サルモネラ症	マレック病	気管炎	伝染性喉頭炎	ロイコトゾーン	鶏痘	悪性カタル熱	レプトスピラ症	豚PRRS	豚赤痢	
牛・豚	牛	牛	馬	豚	鶏	鶏	鶏	鶏	豚	羊	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	豚	豚	豚	豚	牛・豚	鶏	鶏	鶏	鶏	牛	犬	豚	豚			
S50				2	1,697				291									10																			
51			1		120				80																												
52																																					
53																																					
54																																					
55																																					
56																																					
57	1																																				
58					19,427				66																	1											
59									3																10												
60									113																37												
61									29																5												
62																19	3								14												
63																									16												
H元																									15												
2						2,276			10																18												
3		1																							12												
4																									14												
5																									12												
6																									12												
7																									12												
8																									11												
9				3																					17												
10											11	1	17		2									6													
11											21		31	2	10									4	2	69											
12													19						8	1					2	2											
13				1									11												3												
14				1									24												42	110							1		2		
15				13								14	61												127	48	2								1		
16				8				7	1			3	53					1	1						76	4										1	
17				2									49												84	5	9										
18				10								12	71												102	3	6										4
19				5								1	30												66												
20				5									38												90	9											
21				9								2	42												149	5				6	100				2	7	
22				6								1	44												136	2									1		
23				9				9		1		1	52												57	2											
24				4									30												43	7											
25				1									39												28			8									

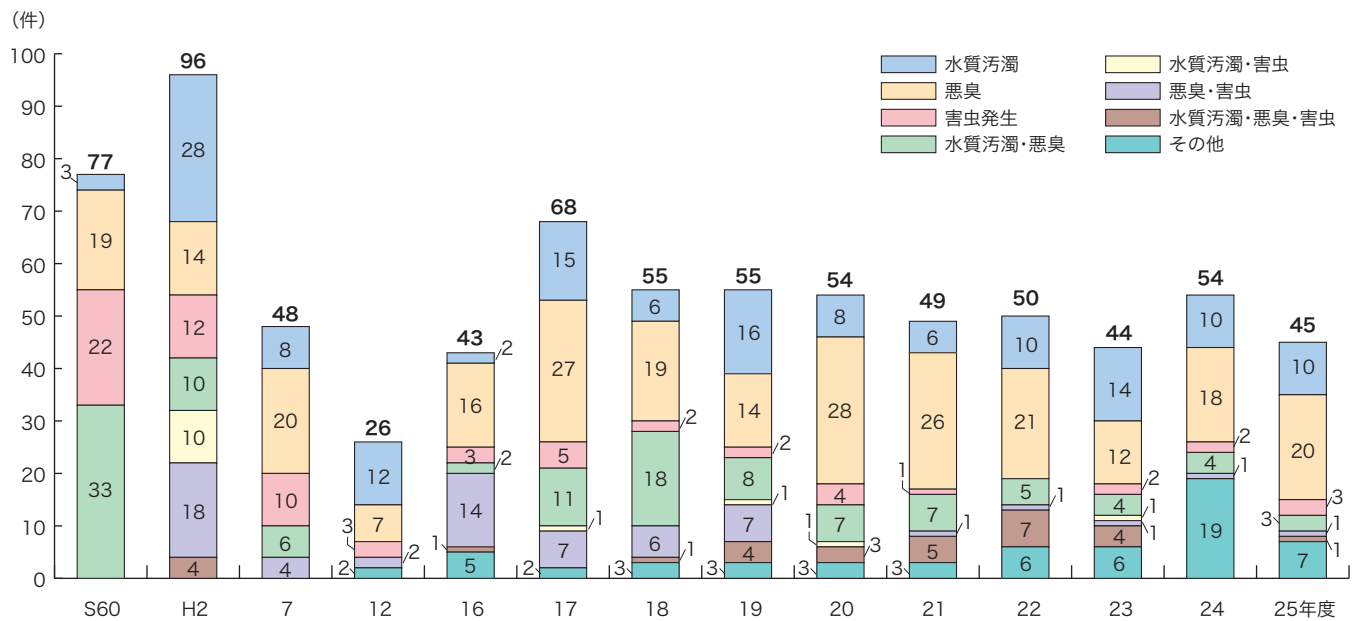
※印の疾病は平成9年度まで法定伝染病  
資料：畜産振興課調べ

## 2. 環境汚染問題畜種別発生件数

### (1) 畜種別苦情発生件数



### (2) 種類別苦情発生件数



鶏を使用した実践的な防疫演習を実施



防疫演習には自衛隊が初参加

# V 平成27年度大分県畜産関係補助事業等（抜粋）

当該ページでは、大分県畜産関係予算のうち主要なものを掲載・紹介しています。

全てのメニュー等を網羅しているものでも、採択基準の全てを示しているものでもありませんので、詳細等については各振興局生産流通部企画・流通班(南部振興局にあっては企画・流通・畜産班)又は、各担当班あてお問い合わせいただけるようお願いします。

## 1 畜産振興課関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	おおいた豊後牛流通総合対策事業	・県産和牛ブランド確立推進事業	おおいた豊後牛の認知度向上のための活動等に対して助成 【事業主体】大分県豊後牛流通促進対策協議会	肉用牛推進班
肉用牛 養豚	県域食肉流通センター整備支援事業	・産地食肉センター整備事業(強い農業づくり交付金)	食肉の衛生品質の向上や部分肉処理頭数の拡大、輸出拡大等を目的とした、国際化に対応した輸出可能な食肉処理施設の整備を支援。 【事業主体】(株)大分県畜産公社	畜産企画班
肉用牛 養豚	畜産物価格安定対策事業	・肉用牛肥育経営安定対策事業 ・生産者積立金助成事業 ・肉用子牛生産者補給金制度 ・肉豚価格安定対策事業	畜産経営の安定を目的として、肥育牛・肉豚では粗収益が生産費を下回った場合、子牛では販売価格が合理化目標価格を下回った場合の補給金等を交付するための生産者積立金の造成を支援。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会	畜産企画班
肉用牛	肉用牛担い手支援事業	・緊急雇用肉用牛人材育成事業(肉用牛ゼミナール・ヘルパー育成プログラム・ヘルパー養成研修)	肉用牛生産の分業化や6次産業化、国際化等に対応した経営感覚のある経営者の人材育成プログラムや、肉用牛経営を支えるヘルパー育成のための担い手人材育成プログラムに対して支援。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会、農業協同組合等	畜産企画班
		・肉用牛ゼミナール支援事業	食肉の需要動向に応じた生産やブランド化の取組を支える人材育成を目的として、肉用牛ゼミナールの受講生を対象に実施する県外での流通研修に対する支援。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会	畜産企画班
全般	獣医師確保対策事業	・獣医師確保特別修学資金給付事業 ・獣医系大学インターンシップ事業	獣医師確保を目的とした、大学卒業後に大分県内で公務員獣医師又は産業動物診療獣医師になることを条件とした給付金の給付や、家畜保健衛生所等県機関でのインターンシップに係る経費に対する補助。 【事業主体】(公社)大分県畜産協会	衛生環境班

## 2 畜産技術室関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	肉用牛繁殖産地活性化モデル事業	・産地活性化支援	繁殖雌牛の地域内預託飼育システム導入や放牧地の活用促進等、大規模経営体の育成に係るモデル的な取組や、これらモデル的な取組の推進に係る活動等に対する支援。 【事業主体】市町村等	食肉鶏卵班
肉用牛	肉用牛大規模経営体育成事業	・肉用牛生産施設整備事業(畜舎等の整備支援・省力的生産体系整備支援) ・家畜伝染病防疫施設整備支援	豊後牛増頭3ヶ年計画に基づき、持続的かつ安定的な経営を目指し生産規模を拡大する農家の施設整備及び機械整備に対する助成。 【事業主体】市町村等	食肉鶏卵班
肉用牛	おおいた豊後牛供給体制確立事業	・繁殖対策(繁殖雌牛増頭対策) ・技術指導強化	生産規模の拡大に取り組む肉用牛繁殖農家等の、オレイン酸生成能力及び産肉能力に優れた繁殖雌牛の導入を支援する他、おいしさ向上のニーズに合う枝肉生産のための技術指導を実施。 【事業主体】(繁)市町村	食肉鶏卵班
		・肉用牛経営安定化対策	肉用牛経営の安定化を目的として、飼養管理技術の向上や大規模経営体育成のための研修会等の開催に対して支援。 【事業主体】おおいた肉用牛振興協議会	食肉鶏卵班
肉用牛	スーパー豊後牛作出対策事業	・肉用牛育種改良推進事業委託事業	生産者組織や関係機関が一体となって肉用牛の育種改良を推進するため、種雄牛造成のための指定交配推進や技術研修会の開催等を委託する。 【大分県肉用牛改良組合連合会】	食肉鶏卵班

## 2 畜産技術室関係補助事業等（前ページからの続き）

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	第11回全国和牛能力共進会対策事業	・出品選抜強化事業	平成29年9月に開催される第11回全国和牛能力共進会に対する出品対策の強化に係る取組に対して支援。 【事業主体】第11回全国和牛能力共進会大分県推進協議会	食肉鶏卵班
酪農	酪農振興総合対策事業	・後継牛預託システム推進対策事業	酪農経営体の労力不足解消及び既存畜舎の有効利用を目的とした後継牛預託システム推進のため、県内預託牧場へ乳用子牛を預託した際にかかる経費を助成。 【事業主体】大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
		・受精卵移植活用推進事業	乳外所得向上による酪農経営体の経営改善を目的とした黒毛和種受精卵移植の取組を推進するため、受精卵移植を行い、不受胎となった牛の移植費用に要した経費（初回分のみ）を助成。 【事業主体】大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
		・経営体育成対策事業	酪農経営体の育成を図るために開催する研修会等に要する経費を助成。 【事業主体】大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
		・TMRセンター体質強化事業	良質粗飼料やエコフィード等の国産飼料活用による低価格な飼料を酪農経営体に安定的に供給するため、TMRセンターを整備する費用に対して助成。 【事業主体】大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
酪農	次代を担う酪農経営基盤強化対策事業	・乳用優良雌牛貸付事業	中核的酪農家の育成を目的として、酪農家を対象とした乳用優良雌牛の貸付に対して支援。 【大分県酪農協同組合】	酪農・飼料班
		・酪農経営担い手育成対策事業	酪農家の生産性向上等を目的として開催される、知識や技術の習得等を目的とした研修会等を支援。 【大分県酪農協同組合】	酪農・飼料班
		・第14回全日本ホルスタイン共進会対策事業	平成27年10月に開催される第14回全日本ホルスタイン共進会の前哨戦として開催される、九州連合ホルスタイン共進会への出品に要する経費を助成。 【事業主体】大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
酪農	酪農経営構造改革推進事業	・生産性向上強化施設整備事業	酪農経営の安定と所得確保を目的として、生産性向上に必要な省力化やカウコンフォート等に係る施設等整備を支援。 【事業主体】市町村及び大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
		・良質生乳流通検査体制整備事業	大分県酪農協同組合日田検査所に生乳検査機器を整備する経費に対して補助。 【事業主体】大分県酪農協同組合	酪農・飼料班
酪農	緊急雇用牛乳・乳製品消費拡大推進事業	・緊急雇用牛乳・乳製品消費拡大推進事業	牛乳・乳製品等の消費拡大を目的として実施される、販売促進員による普及開発や販売促進活動等に対する支援。	酪農・飼料班
養豚	養豚生産性向上対策事業	・養豚経営体質強化推進事業	持続的に経営できる養豚経営体を育成するため、生産者間での課題共有や、課題解決に向けた取組を目的として開催される研修会等に対する支援。 【事業主体】大分県養豚協会	食肉鶏卵班
肉用鶏	緊急雇用おおい冠地どり消費拡大推進事業	・緊急雇用おおい冠地どり消費拡大推進事業	国内初、烏骨鶏を掛け合わせ造成された「おおい冠地どり」の消費拡大推進を目的として、商品開発や加工技術の習得及びイベント等における試食提供等活動を行う人材の育成を支援。 【事業主体】おおい冠地どり処理加工協同組合	食肉鶏卵班
飼料	草地畜産基盤整備事業	・草地畜産基盤整備事業	「安全」「安心」な自給飼料の活用促進及び規模拡大等による担い手の経営改善を進めることを目的として、飼料生産基盤の整備及び畜舎等の整備に対する補助。 【事業主体】(公社)大分県農業農村振興公社	酪農・飼料班
飼料	県産粗飼料流通拡大事業	・稲発酵粗飼料を利用した混合飼料の普及	県産稲発酵粗飼料及びビール粕等を原料とした繁殖雌牛用混合飼料の利活用研究に対する補助 【事業主体】大分県酪農協同組合	酪農・飼料班

### 3 畜産振興課及び畜産技術室関係予算等のうちピックアップ事項

## 酪農振興計画の策定

(概要) 大分県の酪農は、経営環境の厳しさから生産基盤が弱体化し、今後も飼養戸数・頭数の減少が予想されている。

そこで、大分県酪農の生産基盤強化を図るため、新たな振興方針を折り込んだ酪農振興計画を平成26年12月に策定。

### 大分県酪農振興計画骨子

【基本コンセプト】	「次世代を担う酪農経営体」の体質強化と生乳生産量の確保
I 概要	(1)「次世代を担う酪農経営体」とは、45才以下の若い経営者や後継者のいる経営体及び法人経営体 ※本県酪農は規模拡大が進んでおり、「次世代を担う酪農経営体」が定着している (定着率 65%(後継者のいる経営体等 41%、法人経営体 24%)) (飼養頭数割合 87%) (2)「新たな支援体制の整備」、「経営体質の強化」、「消費・流通対策」の3点に主眼を置き酪農の構造改革を推進する

#### II 酪農を取り巻く現状

経営環境の改善は、個別経営体毎の対応では困難な状況にある。

- (1) 消費の減少による乳価の低迷  
(S59年度110円→H25年度97円 88%)
- (2) 輸入飼料価格の高騰  
配合飼料価格：  
H22年1月53.2千円/t、  
H26年1月65.4千円/t 123%
- (3) 後継牛導入価格の高騰  
(H9年度265千円/頭、H25年度521千円/頭  
196%)
- (4) 農家戸数、頭数の減少  
H21年戸数214戸、頭数15,400頭  
H26年戸数156戸、頭数14,100頭  
73% 92%
- (5) 生乳生産量の大幅な減少  
(H18年101,525t、H25年80,492t、79%)
- (6) 生乳の差別化、高付加価値化の困難性  
(6次産業化県内4戸)

#### III 課題解決に向けた考え方

##### 個別経営体の所得向上

生産性の向上 × 搾乳牛頭数の拡大 + 乳外所得  
(コスト削減) (乳量増加) (受精卵移植)

##### 1 新たな支援体制の整備

・作業受託システムの整備等による効率的生産体制の確立

##### 2 経営体質の強化

・生産性向上による経営体質の強化  
・既存施設の有効活用による経営の効率化

##### 3 消費・流通対策

・牛乳・乳製品の消費拡大対策の推進  
・生乳生産量の確保

#### IV 具体的対策

##### 酪農構造改革の推進

後継牛預託システムの構築  
効率的な黒毛和種受精卵移植体制の整備  
県酪TMRセンターの機能強化  
県酪TMRセンターとコントラクターとの連携  
県産飼料の増産と堆肥還元システムの構築

##### 生産性向上、規模拡大対策

かコンフォート対策、省力化対策の充実  
バーミング等新しい研修の実施  
性別別精液等を活用した効率的な後継牛確保  
④作業受託システムの活用による搾乳牛頭数の拡大

##### 経営対策

各種資金の活用による財務状況の改善  
指導班会議による定期的な現状把握と経営指導

##### 消費・流通対策

①酪農教育ファーム等による消費者の理解醸成  
②酪農家の創意工夫による6次産業化の取組支援  
③既存畜舎の活用による搾乳牛頭数の確保

酪農生産  
目標数値(H32年)

【生乳生産量】 現況値(H25) 80,492 t → 目標 (90,000 t)  
【経産牛頭数】 現況値(H25) 9,890頭 → 目標 (10,000頭)  
次世代を担う酪農経営体の姿：経産牛頭数70頭規模以上、1頭当たり乳量9,000kg (安定的持続可能な酪農経営体)

## (事業名) 酪農振興総合対策事業

(事業概要) 事業実施主体：大分県酪農業協同組合

予算額：63,826千円(後継牛預託システム推進対策事業21,900千円、受精卵移植活用推進事業5,040千円、経営体育成対策事業500千円、TMRセンター体質強化事業35,890千円)

事業実施期間：H27年度～H29年度

(補助対象) 酪農経営体の体質強化等を目的として、経営体の労力不足解消による個体管理作業時間の確保や既存畜舎の有効利用及び効率的な黒毛和種受精卵移植の活用による乳外所得向上等を図るための取組に対して支援を行う。



搾乳体験



ふれあい牧場

## (事業名) 県域食肉流通センター整備支援事業

(施策概要) 県産畜産物の生産流通体制の強化、衛生基準の向上による安全・安心な県産食肉の安定供給、「おおいた豊後牛」の輸出促進による農家の所得向上を図るため、(株)大分県畜産公社の産地食肉センター整備を支援するもの。

(事業概要)

### (1) 施設規模

- ①本館棟 1棟(牛処理エリア、豚処理エリア、厚生エリア : 11,084.9㎡)
- ②病畜棟 1棟(514.0㎡)
- ③構造 鉄骨造一部2階建て(牛:1階建て、豚:2階建て、厚生施設:2階建て)
- ④処理能力 豚換算 800頭/日 (豚560頭、牛80頭/日)

### (2) 年度別工事内容

- ①平成26年度 実施設計、本館棟杭工事、病畜棟建築工事
- ②平成27年度 本館棟建築・電気・管工事、冷却設備工事、生産機械工事、外構工事

### (3) 事業費等

- ①事業費 予算額 51.2億円(補助対象事業費)
- ②補助率等 国+県=2/3(34.2億円)、市町村(9.5億円) 計43.7億円



完成予想図



建設予定地

## 3 農林水産省施策の一部紹介

### (事業名) 畜産・酪農の収益性向上(畜産クラスター関連施策)

(施策概要) 畜産農家及び関係機関等が一体となって組織する「畜産クラスター(いわゆる協議会)」を核に進められる、地域発の畜産収益力向上に向けた有機的取組に対して、各種施策が投入されるもの。

(関連事業)

#### (1) 高収益型畜産体制構築事業

- ①概要 収益力向上を目的とした新たな取組の実証等を推進するため、実証に要する資材費や先進地調査等を支援。
- ②手続 国直接採択事業。事業主体(畜産クラスター)から農林水産省九州農政局長へ直接、申請。
- ③予算 平成26年度補正 200百万円 平成27年度当初 ?百万円(定額:240万円以内)(注)

#### (2) 畜産競争力強化整備事業

- ①概要 知事認定を受けた畜産クラスター計画達成に向け、必要とされる畜舎等の施設整備及び補改修等を支援。
- ②手続 間接補助事業。事業主体(畜産クラスター)から市町村、県を通じて農林水産省へ申請。
- ③予算 平成26年度補正 5,115百万円 平成27年度当初 ?百万円(1/2以内。施設によって上限あり。)(注)

#### (3) 畜産収益力強化支援事業

- ①概要 知事認定を受けた畜産クラスター計画達成に向け、必要とされる機械等のリースを活用した導入等を支援。
- ②手続 (独)農畜産業振興機構事業。公募に応じた全国団体等を事業主体とし、県域団体等を通じ、又は直接に申請。
- ③予算 平成26年度補正 15,000百万円 平成27年度当初 なし ※平成26年度補正のみ

#### (4) 畜産・酪農生産力強化緊急対策事業

- ①概要 知事認定を受けた畜産クラスター計画達成に向けた性別別受精卵活用や発情発見装置導入等を支援。
- ②手続 公募に応じた全国団体等を事業主体とし、県域団体等が申請。
- ③予算 平成26年度補正 1,976百万円 平成27年度当初 なし ※平成26年度補正のみ

(注)大分の畜産2014作成時点で農林水産省平成27年度予算は未成立



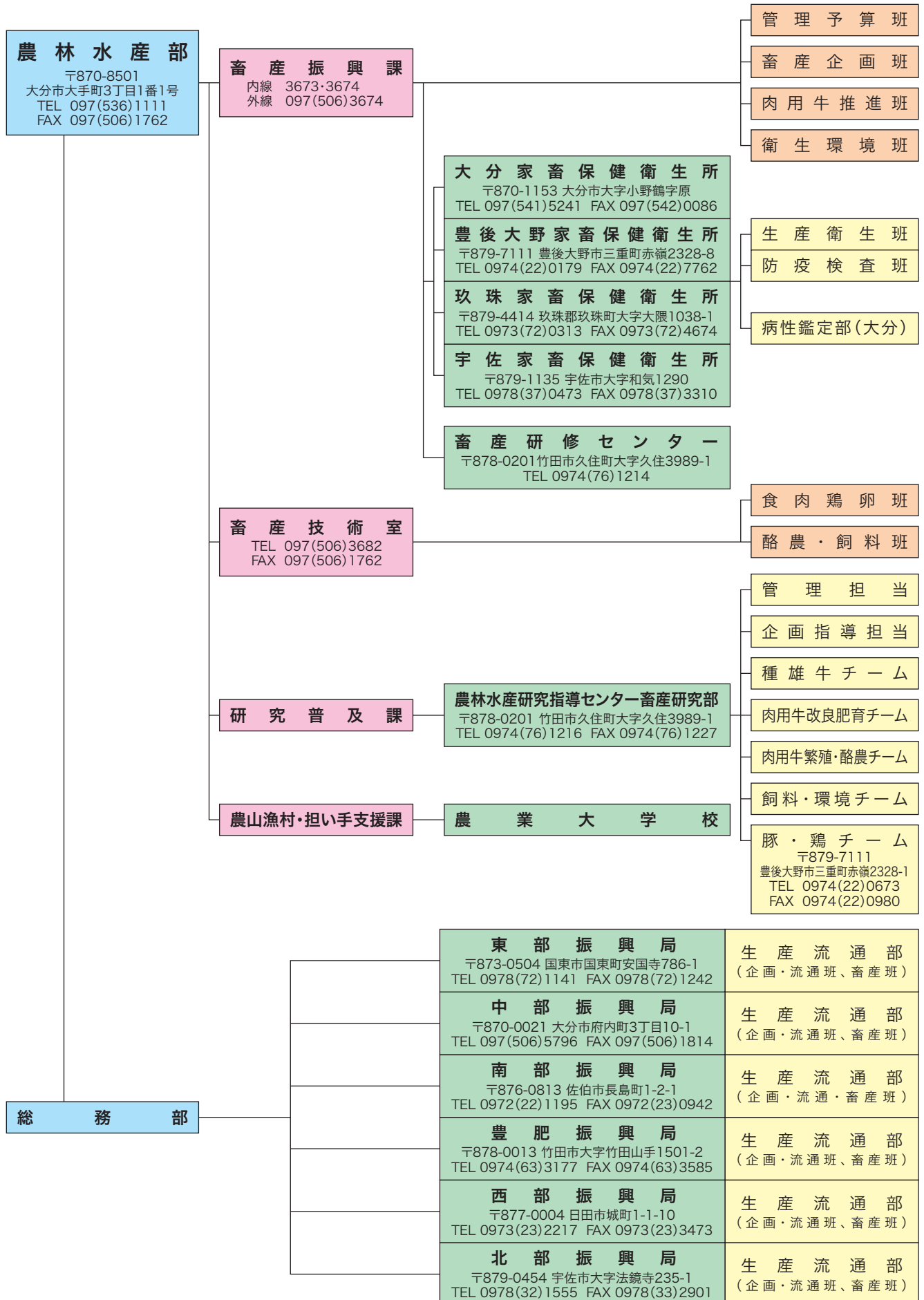
# (資料 1)

## 畜産関係団体等一覧

名称	代表者	郵便番号	住 所	電話番号	FAX 番号
(公社)大分県畜産協会	会 長 近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 JA 全農大分県本部内	097-545-6591	554-4049
大分県家畜人工授精師協会	会 長 梶原 美行	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県庁畜産振興課内	097-506-3678	506-1762
大分県草地飼料協会	会 長 坂本 和昭	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県庁畜産技術室内	097-506-3684	506-1762
(一社)大分県配合飼料価格 安定基金協会	理事長 帆秋 忠俊	870-0025	大分市顕徳町 2-1-3 カ一サ阿部 203	097-534-2727	534-0991
大分県家畜商業協同組合	理事長 石田 和男	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-532-8577	532-8582
(公社)大分県獣医師会	会 長 麻生 哲	870-0901	大分市西新地 1-2-29	097-555-9527	555-9528
(株)大分県畜産公社	代表取締役社長 佐藤 洋	879-7305	豊後大野市犬飼町田原 1580-29	097-578-0290	578-0308
(有)大分県酪農振興公社	代表取締役社長 中村 英範	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4222	586-4226
(公社)全国和牛登録協会 大分県支部	支部長 近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階)	097-574-8588	574-8258
大分県養豚協会	会 長 工藤 厚憲	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養鶏協会	会 長 鈴木 明久	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養蜂組合	組合長 枝次 秀樹	879-5506	由布市挾間町挾間 604	097-583-3307	—
大分県食肉事業協同組合 連合会	会 長 清田 浩徳	870-1121	大分市鴛野 929-3	097-529-6544	529-6599
大分県農業協同組合中央会	会 長 佐藤 洋	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-538-6366	538-7125
大分県信用農業協同組合 連合会	代表理事理事長 多嶋田 明	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-538-6385	535-2746
全国農業協同組合連合会 大分県本部	本部長 幸野 茂巳	870-0844	大分市古国府 1220	097-544-0046	545-9532
大分県農業共済組合	組合長理事 日野 立明	870-0822	大分市大道町 3-1-1	097-544-8110	544-8242
大分県酪農業協同組合	代表理事組合長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4222 (管理部)	586-4226
九州乳業株式会社	代表取締役社長 檜垣 周作	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4135	586-4136
(社)大分県酪農ヘルパー協会	会 長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4225 (酪農部)	586-4226
大分県牛乳普及協会	会 長 清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪中央支所内)	097-586-4094	586-4095
(株)大分県酪食肉公社	代表取締役社長 宇野 幸一	870-0108	大分市大字三佐字新港 2405-2	097-521-4452	522-2743

# (資料 2)

## 畜産関係機関県組織機構 (平成27年4月1日現在)



未来を拓く  
おおいた豊後牛たち

# 種雄牛

おおいた豊後牛   
大分県産の黒毛和牛

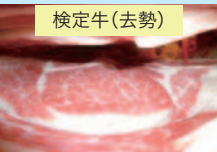
## 期待の星たち

### 平福安 寿恵福-安平-糸晴 (佐賀)



気高系雌牛との相性抜群

枝肉重量  
593.2 kg  
ロース芯  
84 cm<sup>2</sup>  
BMS  
No.12



現場後代検定成績  
BMSNo. 7.3  
ロース芯面積 61.2 cm<sup>2</sup>  
枝肉重量 479.9 kg

### 光星



光照福-平茂勝-福桜(宮崎)  
第10回全国和牛能力共進会  
第1区(若雄の区)首席  
**農林水産大臣賞**

登録点数 88.8点(県内1位、国内7位)  
兄弟牛肥育成績良好

### 玉吹雪



藤平茂-平茂勝-初藤  
枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚、脂肪交雑で高評価。気高の強い血統であり糸桜系、但馬系雌牛との交配を推奨。

平成22年度合同調査会トップクラス

### 湯布安平

安平-安福(岐阜)-招福  
ロース芯面積、脂肪交雑で育種価高評価で県下で多く飼養される糸桜系及び気高系雌牛との交配を目的に造成された種雄牛



但馬系種雄牛

### 寿恵高福

寿恵福-平茂勝-神高福  
現場後代検定ではBMSで大分県歴代2位。育種価評価では脂肪交雑とロース芯面積で高い評価を得ている。平成26年広域後代検定 MSNo でトップの成績。交配は気高系、但馬系雌牛を対象とする。



H26広域後代検定 BMS 1位

### 福之藤 藤平茂-糸福-八重福



現場後代検定ではBMSで6.3という高評価。枝肉重量と共に安定した成績を出しています。育種価評価では脂肪交雑と皮下脂肪厚で高い評価を得ている。交配は糸桜系、但馬系雌牛を対象とする。

### 豊之維新 安福勝-金幸-神高福



BMSNo. 12  
ロース芯面積 77 cm<sup>2</sup>  
枝肉重量 429.6 kg



安福165の9を父とする安福勝と金幸を父とする母「さとみ」の受精卵より造成された種雄牛、現場後代検定成績は脂肪交雑(BMS)で歴代2位タイを記録。気高系や糸桜系の繁殖雌牛の交配を推奨。

# (資料 4)

## 県内の主要なふれあい牧場

### 町田バーネット牧場

大分県玖珠郡九重町町田  
TEL 0973-78-9446 FAX 0973-78-9449

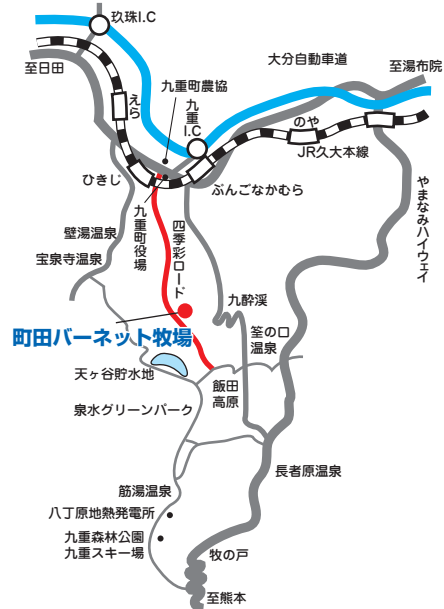
自然の景観が素晴らしい町田バーネット牧場は豊後牛をはじめいろいろな動物を飼育している。ポニー、ヤギ、ウサギ、地鶏に直接エサを与えたり、触ったり、動物とのふれあいを通して忘れかけた自然のすばらしさを満喫することができる。



○駐車場/300台 ○売店/有 ○営業時間/夏10:00~18:00 冬10:30~17:30 ○バーベキューハウス/有 ○休日・休館日(冬期)/第2・4火曜日 ○乗馬体験(有料)/5月連休・夏休みのイベント時

#### 【アクセス】

- 電車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- 車 /大分自動車道九重ICから15分



### カウベルランドくす

大分県玖珠郡玖珠町大字戸畑9848-1  
TEL0973-73-8037・FAX0973-78-8668

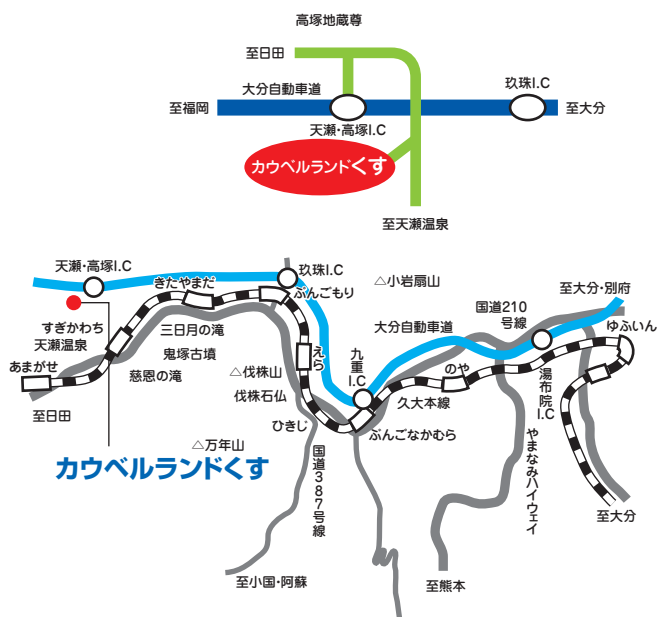
都市と農村の交流拠点として建設され、町内外の多くの人に親しまれている。場内には特産物直売館としてのレストラン(300人収容)、キャンプ場、小動物館そして四季折々の花が栽培される花壇等の施設が点在している。



○駐車場/340台 ○売店/有 ○営業時間/10:00~21:00 レストラン11:00~21:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○宿泊施設/有

#### 【アクセス】

- 電車/JR久大本線豊後中川駅下車、車で20分
- 車 /大分自動車道天瀬・高塚ICから3分



# ガンジーファーム

大分県竹田市久住町大字久住4004-56  
TEL0974-76-0760

久住山の山麓の高原には名前の由来にもなったガンジー乳牛が飼育されている。乳製品工場、レストランや資料館が点在し、自家製乳製品はおみやげにも最適。ふれあい牧場（羊、ヤギ等）、ポニーハウスも有る。



○駐車場/100台 ○売店/有 ○営業時間/9:00~17:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○搾乳体験(晴れの日のみ)/土・日・夏休み ○オリジナル牛乳・乳製品/牛乳、アイスクリーム、チーズ、ヨーグルト他

## 【アクセス】

- ◎電車 / JR豊肥本線豊後竹田駅下車、車で30分
- ◎車 / やまなみハイウェイ(九州横断道路) 瀬の本交差点から15分



# みどりマザーランド

〒870-1203 大分県大分市大字廻栖野3231  
TEL 097-586-4183 (九州乳業株) 平成12年4月開園

都市(大分市)に隣接した地域にあって、豊かな自然に恵まれた山と緑が織り成す雄大な景観に浸りながら、広大な芝地の中での遊観。複合的遊具等、変化に富んだ施設が整備され、四季を通じて広く住民の「交流の場」として利用されています。



○駐車場/300台(イベント開催時1,000台)大型バス10台(イベント開催時20台) ○ふれあい・研修施設/ふれあい牧場、ふれあい公園施設、研修施設ふれあい棟・見学コース(製造行程) ○入園時間/9:00~17:00

## 【アクセス】

- ◎車 / 大分市中心街より20分



## (資料5)

### 平成26年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
1月9日	大分フェアでの副知事トップセール（名古屋市）
1月25日	大分フェア（福岡市 木の葉モール）
1月30日	九州酪農青年女性会議指導者研修会が開催される
2月4日	九州・沖縄・山口家畜防疫対策連携会議（佐賀県）
2月5日	九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会（佐賀県）
2月9日	オレイン和牛の饗宴2014（大阪市）において「おおいた豊後牛」をPR
2月14日	(有)釘宮牧場（大分市）が第45回大分県農業賞で最優秀賞を受賞
2月19日	農林水産省と連携した口蹄疫防疫演習を開催
3月3日	おおいた肉牛生産者協議会主催の肥育技術セミナーが開催される
3月4日	九州地域飼料増産研修会が開催される
3月5日	九州地域飼料増産会議が開催される
3月7日	豊後・米仕上牛の知事贈呈式
3月12日	豚流行性下痢（PED）が日田市で発生。県内での発生は平成9年以来。
3月17日	おおいた肉牛生産者協議会主催の第1回肥育枝肉研究会が(株)大分県畜産公社で開催される
3月19日	大分県畜産研修センター後継者養成研修 修了式
3月27日	豊後牛生産女性組織交流研修会が開催される。
4月16日	大分県畜産研修センター後継者養成研修 入所式
4月16日	平成26年度ブラック&ホワイトショー（乳用牛共進会）が開催される
4月23日	大分畜産 Net 鼓動通常総会・研修会
4月23日	スーパー種雄牛「寿恵福」号が満17歳の天寿を全う
5月26日	「奪還」をスローガンに第11回全国和牛能力共進会県推進協議会を設立
6月7日	トリニータ公式戦において(株)九州乳業イベントが開催される
6月24日～25日	ベトナム和牛プロモーションに参加し「おおいた豊後牛」をPR
6月30日	全国ミルクセミナーが開催される
7月3日	PED九州連携会議
7月4日	肉用牛ゼミナールの開講式及び第1回専門研修を開催（受講生30名）
7月18日	第1回全国自給飼料生産コンクールにおいて、豊後高田市の永松英治氏（(有)富貴茶園）が農林水産大臣賞を受賞
7月23日	「豊味の証」食味会を開催（美味しいおおいた豊後牛生産・流通協議会）
7月25日～26日	「おおいた豊後牛」ヤフオクドーム消費拡大フェアを開催

## 平成26年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
7月26日	サンリブ木の葉モール（福岡市）フェアで「おおいた豊後牛」をPR
7月30日	神戸料理研究会「シェフの集い」で「おおいた豊後牛」をPR
7月30日	韓国における口蹄疫発生に伴い緊急防疫対策会議を開催
8月1日～8月2日	肉用牛ゼミナール流通研修（大阪）を実施
8月12日～15日	大分県香港プロモーションに参加し「おおいた豊後牛」をPR
9月2日～3日	肉用牛ゼミナール流通研修（名古屋・三重）を実施
9月26日	平成26年度大分県自給飼料増産セミナー及び大分県コントラクター等経営高度化研修会を開催
10月1日～5日	阪急百貨店大分フェアで「おおいた豊後牛」をPR
10月4日	大分県畜産共進会（肉牛の部）が開催される 片桐和彦氏（豊後高田市）が農林水産省生産局長賞を、(株)甲斐農産（宇佐市）が九州農政局長賞を受賞
10月18日	大分県畜産共進会（肉用牛の部）が開催される 後藤克寿氏（竹田市）が農林水産大臣賞を、宿利英治氏・(有)グリーンストック八幡・安部幸俊氏が九州農政局長賞を受賞
10月18日～19日	大分県農林水産祭（農業の部）において、畜産フェスタイベントを実施 フェスタでは、県産畜産物の出品があった他、スタンプラリー等のイベントを実施
10月23日	大分県畜産共進会（乳用牛の部）が開催される 岡嶋建一郎氏（九重町）が農林水産大臣賞を、高倉敬典氏（九重町）が九州農政局長賞を受賞
10月28日	大分県特定家畜伝染病（HPAI）防疫演習を実施
11月1日～31日	「おおいた豊後牛」取扱認定店において、消費拡大キャンペーンを実施
11月5日～7日	大分県香港プロモーションに参加し「おおいた豊後牛」をPR
11月6日～7日	平成26年度公共牧場技術実地研修会（西日本ブロック）を開催
11月8日	タマニコイベント2014
11月15日	第6回九州連合ホルスタイン共進会が開催され、大分県出品者が名誉賞を受賞
11月19日	大分県養豚協会による県産豚肉の無償提供と育ドル娘の啓発ステージで食育を推進（竹田市立荻小学校）
11月27日～29日	大分県タイプロモーションに参加し「おおいた豊後牛」をPR
11月28日	大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会を開催
12月8日	肉用牛ゼミナール専門研修を別府市で開催
12月16日	延岡市における高病原性鳥インフルエンザ発生に伴い、県内の一部が搬出制限区域へ。消毒ポイントを2カ所設置。
12月19日	大分畜産Net「鼓動」研修会
12月31日	搬出制限区域解除に伴い消毒ポイントの廃止



県では、これまで地域の気候、土地条件を有効活用した「おおいた型放牧」を推進してきました。この成果として、県内の優良事例である豊後高田市(有)富貴茶園の取組が全国自給飼料生産コンクールにおいて農林水産大臣賞を受賞しました。



肉用牛の中核的な担い手育成を図る「肉用牛ゼミナール」を平成26年度に開講。今後2年間、専門技術研修や県外先進地研修等を通じ、県内の若手生産者30名の経営管理能力向上やネットワークづくりを支援します。

## 大分の畜産 2014 (平成26年度版)

平成27年3月発行

編集・発行者 大分県 農林水産部 畜産振興課・畜産技術室

〒870-8501 大分市大手町3-1-1 TEL097-506-3674

印刷所 株式会社 インタープリンツ

※環境に配慮して再生紙を使用しています。